

特別支援学級の授業づくりガイド

～学習指導案集（授業展開モデル）～



京都府総合教育センター
特別支援教育部

目次



はじめに	・・・ 1
1 特別支援学級における授業づくり	・・・ 2
2 授業デザイン	・・・ 3
3 学習指導案（授業展開モデル）	・・・ 4
(1) 細案	
細案モデル1（生活単元学習）劇あそび＜小学校＞	・・・ 6
細案モデル2（生活単元学習）冬のお楽しみ会＜小学校＞	・・・ 10
細案モデル3（生活単元学習）調べ学習と発表＜小学校＞	・・・ 14
細案モデル4（生活単元学習）どんぐり祭り＜小学校＞	・・・ 18
細案モデル5（生活単元学習）夏祭り＜中学校＞	・・・ 22
細案モデル6（算数） 重さの比べっこ＜小学校＞	・・・ 26
(2) 略案	
略案モデル1（国語）言葉を使って表現しよう＜小学校＞	・・・ 30
略案モデル2（外国語）一般動詞の疑問文＜中学校＞	・・・ 31
4 障害種に応じた教育的対応と学習指導案への記載事項	・・・ 32
（コラム）授業づくりの思い出	・・・ 35
（資料1）学習指導案作成のポイント	・・・ 36
（資料2）アンケート調査まとめ	・・・ 40
5 研究のまとめ	・・・ 44
おわりに 参考・引用文献	・・・ 45

はじめに

「計画は緻密に実践はおおらかに」



特別支援学級の授業は、在籍する児童生徒の発達状況をはじめ、様々な教育的ニーズと環境要因によって変化します。

子どもの状況だけでなく、担任の教育経験や得意分野、個性によっても変化があり、出会った子どもと関わる人や関わり方で変わることになります。どんなに緻密に計画しても、その日子どもが一人欠席しただけでも全く変わってしまう難しさとやりがいと奥深さがある、それが特別支援学級の授業です。

近年の大量退職・大量採用による教員構成の変化は特別支援学級にもあり、経験豊かな教員が多数おられた状況から、経験の浅い教員への交代期に入りました。

通常教育課程での豊かな指導経験をもとに、さらに子どもの発達状況、認知特性等を把握し、個の教育的ニーズに応じた指導を行うわけですが、発達や学力が個々に違う複数名の学級で授業をつくり、子どもたち個々の指導目標と評価を日々行うことは、なかなか大変なことです。

しかし、通常教育課程を離れ、子どもの教育的ニーズに合った指導を期待されている特別支援学級での授業は、子どもたちにとっても、自分のペースで仲間と楽しく関わりながら学び、その中で力を付けていくことができる学びの場となるのです。

特別支援教育部では、通常の学級におけるユニバーサルデザインの授業、特別支援学校の授業に続き、特別支援学級の授業と研究を進めてきました。

今回の冊子は、昨年度の「特別支援学級担任のための教育課程ハンドブック」を踏まえ、具体的な学習指導案集（授業展開モデル）として作成しました。

これは、府内（京都市を除く。）全特別支援学級担任へのアンケート調査から、経験年数の少ない先生に役立ち、明日の授業づくりの参考となる学習指導案（授業展開）のヒントを期待されたことによります。

作成に当たっては、府内全域の実践及び授業研究の中から学習指導案を御提供いただき編集しました。編集に際し、京都教育大学の相澤雅文教授には御助言をいただきました。厚くお礼申し上げます。

日々の授業の大多数は略案で臨まれる機会が多いと思いますが、より良い授業づくりを重ねていく上で、授業研究も大切です。この冊子を是非お役立てください。

学級の教育課程、子どもたちの個別の指導計画、先生方のアイデアが結び付き、楽しい授業が繰り広げられることを願っています。

京都府総合教育センター 特別支援教育部

1 特別支援学級における授業づくり



特別支援学級は、学校教育法第 81 条の規定に基づき、小学校及び中学校に特別に編制された学級であるので、教育課程は基本的に小学校及び中学校の学習指導要領に基づいて編成されます。

しかしながら、特別支援学級は、本来通常の学級における学習では十分にその効果を上げることが難しいとされる児童生徒のために編制された学級です。したがって、通常の学級と同じ教育課程をそのまま適用することは適切ではありません。そのため、特別支援学級の教育課程の編成は、学級の実態や児童生徒の障害の程度等を把握し、考慮した上で、各教科の目標・内容を下学年のものとしたり、知的障害特別支援学校の各教科等を合わせた指導を取り入れたり、学習上又は生活上の困難・克服を目的とした「自立活動」を取り入れることなどが行われます。すなわち、特別支援学級に在籍する児童生徒一人一人について「個別の指導計画」を作成して、個々の教育的ニーズに応じた授業を展開することが大切なこととなるわけです。

特別支援学級の教育は、将来の姿を見据え子どもが自立し、社会参加するために必要な「生きる力」をはぐくむことをめざしています。社会生活を送る上で必要となる様々な事柄を体験的・实际的に学ぶことを通して、子ども自らが生活を主体的・自立的に営むことができるようにする教育といってもよいでしょう。

特別支援学級の授業は、そうした視点を踏まえた上で、目標の設定や学習展開の在り方を考える必要があります。

教科による学習において、教授－学習過程を中心としたもの（時にはプリント学習を中心としたもの）だけではなく、物の操作や他者との関わりを通した活動等、児童生徒の主体的・能動的な学習につながる、体験を伴った教科学習の方法の工夫・開発が必要です。

また、「生活単元学習」を代表とする各教科等を合わせた指導においては、題材や授業展開の自由度が高いことから「どのようなねらいをもって題材の選定を行ったら良いのか、また何をどのように評価するのが難しい」といったことや、「学年が変わっても、毎年同じような単元を行っている」などの声が聞かれることも事実です。これについては、知的発達の遅れのある児童生徒の特性を考えれば、繰り返しの活動の中での緩やかで質的な変化を促していくことは大切なことと考えます。

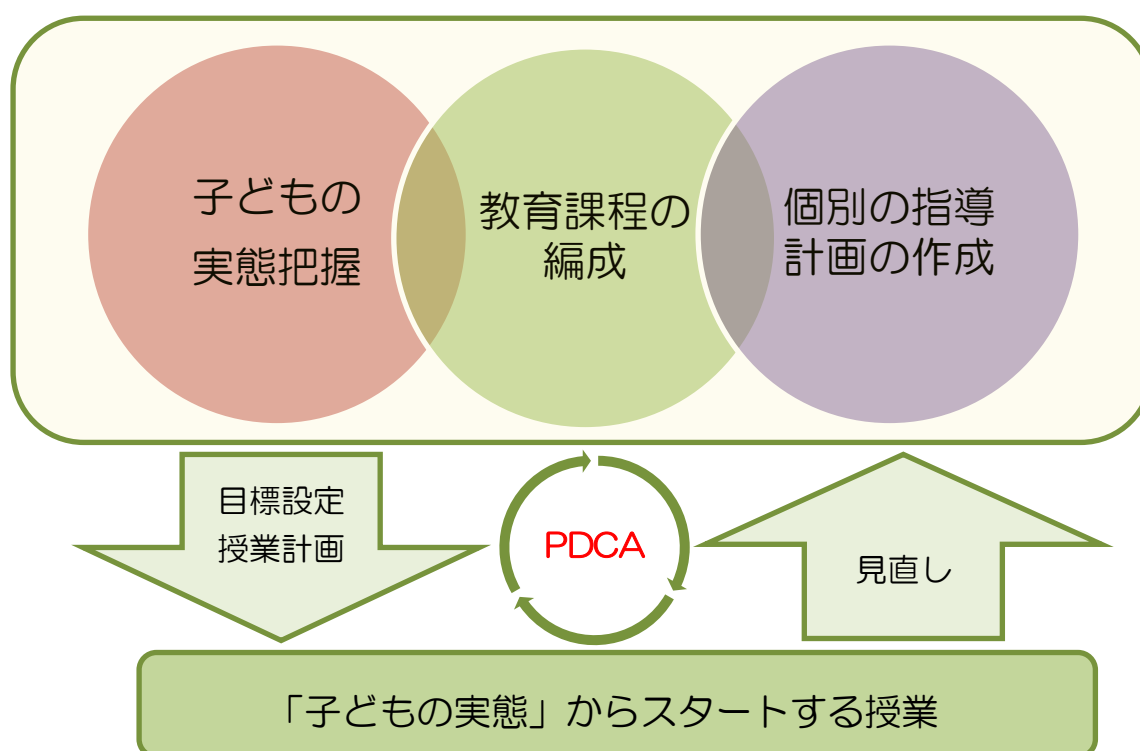
一方、今日、「生活単元学習」に対する期待は、子ども主体の学習活動であることは認識されているものの、実際の指導の際、指導計画の作成や子ども主体の授業づくり等に関する様々な課題を抱きつつ指導を行っている現状があるともいえます。それぞれの学校、学級の実践を振り返り、子どもを主体とした学校生活や授業を支える「生活単元学習」の在り方を、今改めて問い直すことが大切なのではないかと考えています。

京都教育大学 相澤 雅文

2 授業デザイン

特別支援学級の授業は、単元や題材があってそこからスタートするのではなく、「子どもの実態」からスタートしてつくっていきます。

分かる、できる授業を通して「子どもが変わる」、「子どもが自信をもつ」ことをめざします。子どもの実態から、できたことが実感できる、達成した喜びを味わうことのできる授業デザインが大切です。



子どもの実態に合わせた授業デザインのためには、まずは子どもの実態を多面的に把握しておくことが大切です。子ども一人一人の得意なことや不得手なことを把握しそれを踏まえて授業をつくることはもちろん、子どもの興味・関心のあることを把握し授業に組み入れていければ、子どもの主体的な学習につなげることもできます。

一方、学校行事等を組み込んで単元をつくる、関連した教科的な学習を組み入れる等の工夫で、広がりのある授業をつくることもできます。

自由に豊かな発想で授業を構想し、授業を実施し、実施後はそれを評価し、改善するPDCAサイクルでの授業づくりを重ねていきます。

次に、学習指導案（授業展開モデル）を示します。授業を子どもに合わせてどう展開していくのか、授業デザインの参考に活用してください。

3 学習指導案（授業展開モデル）

～細案～

細案は、児童生徒の実態から単元（題材）設定の意義、目標と指導内容の設定、評価の根拠等が記述され、様々な角度から授業を見ることができます。

◎各教科等を合わせた指導のモデル◎

知的障害のある子どもは、学習によって得た知識が断片的になりやすく、実際の生活の場で応用されにくいことや、成功体験が少ないことなどにより主体的に取り組む意欲が十分に育っていないこと、実際的な生活経験が不足しがちであることから、実際の・具体的な内容の指導が大切です。このような特性を踏まえ、効果的な指導として実施するのが、**各教科等を合わせた指導**です。各教科等合わせた指導は、各教科等の内容を幅広く取り扱うこととなります。

「学習指導（授業展開）モデル」では、各教科等を合わせた指導の中から生活単元学習を示しますが、各教科のねらいに迫り「下学年各教科」として目標や内容を整理し、実施することもできます。

細案モデル	校種	内容	取り扱う 下学年各教科	発達の 段階
1 生活単元学習	小	表現を楽しむことをねらった 劇あそび	国語	B 2～C
2 生活単元学習	小	季節を意識してつくる 冬のお楽しみ会	生活科 図工	B 2～D
3 生活単元学習	小	友だちと協力して行う 調べ学習と発表	国語 (総合的な学習の時間)	C～D
4 生活単元学習	小	季節行事を楽しむ どんぐり祭り	生活科 理科 図工	B 2～C
5 生活単元学習	中	友だちと協力して行う 夏祭り	数学 美術	C～D

◎知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科（算数）モデル◎

細案モデル	校種	内容	発達の段階
6 算数	小	重さの比べっこ	B 2～D

～略案～

略案は、おおまかに授業の内容をつかみ、確認をすることができます。

日常的な授業や授業を参観する際に使うことができます。

略案モデル	校種	内容	発達の段階
1 国語	小	言葉を使って表現しよう	B 2～D
2 外国語	中	一般動詞の疑問文	C～D

学習指導案（授業展開モデル）

提供された学習指導案をもとに授業展開モデルとして示しています。

それぞれ、一つ一つの授業展開としてまとめていますが、各学級及び児童生徒の実態を踏まえ、必要だと思われることを組み込んだり、変更したりするなど、自由なアレンジや工夫を加えて活用してください。

細案モデル1 生活単元学習

表現を楽しむことをねらった劇あそび

生活単元学習 学習指導案

〇〇〇〇 小学校

指導者名 〇〇 〇〇

1 日 時 平成〇年〇月〇日（〇） 〇：〇～〇：〇

2 対 象 〇〇学級〇組

第1学年1名 第2学年1名 第6学年1名 計3名

3 場 所 〇〇学級〇組教室

4 単元名 げきあそびをしよう～ぞうくんのおさんぽ～

5 児童の実態

発達の段階は、4歳から10歳程度の学級である。

学年がそれぞれ異なり、発達の段階や学習課題も異なるため、3人での一斉授業を行う際は学習形態や内容を工夫する必要がある。個別にそれぞれの目的を追求する学習形態、同じ教材を使ってお互い関わり合いながら3人で学習する形態等、学習のねらいや教材の特性に応じて学習形態を工夫している。

お話を読んだり聞いたりする学習は、今年度初めから継続して行っている。絵本の読み聞かせは3人とも好きではあるが、お話の世界に入って楽しむというところには至っていない。また、3人それぞれが思いを出し合う場面はあっても、学び合うという形にはつなげられていない現状がある。

児童	実 態
A (1年)	- ひらがな50音の読み書きができる。 - 文章を読んだり話を聞いたりして内容を理解することはよくできる。また、「〇〇になると危ないから、してはいけないよ。」のような理由や物事の因果関係もよく理解できる。 - お話するのは好きで、経験したことをたくさん話すことができる。文脈の整理は不十分であるが、自分の気持ちや感動を一生懸命に伝えようとする。 - いろいろなことに興味をもち、意欲的に取り組むことができる。反面、注意の転動性が高く、何かに気がひかれると席を立ってしまうことがある。
B (2年)	- 年齢よりも幼さを感じるところがあり、自分のやりたいことには取り組むが、やりたくないことには取り組まないといった様子が見られる。 - ひらがな50音、カタカナ50音の読み書きができる。 - 話をすることが好きで、一生懸命に話そうとするが、文脈が整理されていないため、聞き手が話の内容を理解するのが難しいことが多い。
C (6年)	- 学習や仕事に真面目に取り組む、教師の言ったことを素直に聞いて頑張ることができる。 - 優しさや思いやりの気持ちを日常的に発揮することができ、低学年の友だちが少しわがままを言っても、お姉さんらしく優しく声かけができる。

	・中学年程度の文章はだいたい音読できるが、作文を書くときひらがなが多くなる。 ・これまでの学習で、文章の中から答えとなるような大切な言葉を見つけようと意識するようになっている。 ・休みの日にあった出来事を作文にする学習に取り組んでいる。表現は未熟であるが、経験したことを順番に書くことができる。
--	---

6 単元設定の理由

これまでの学習では、物語を読んで内容を味わうような段階までは至っていなかった。

昨年度、2年生のB児との「くじらぐも」の学習において、ペープサートを使った劇遊びに取り組んだ際は教師の音読に合わせて子どもがペープサートを動かすというような内容で行った。くじらがまわれ右をするところでペープサートをひっくり返したり、「天までとどけ1，2，3」の場面でジャンプしたりすることを表現して楽しんでいた。ペープサート进行操作することで、自然に物語の世界に入り込み、主人公の気持ちを表現する楽しさを味わうことができた。

このように物語の楽しさを味わいながら表現することが「豊かに表現する」ことにつながるのではないかと考え、本単元の「げきあそびをしよう～そうくんのおさんぽ～」を設定した。

「そうくんのおさんぽ」は、さんぽの途中に友だちに出会う場面が繰り返しのなっていて、劇遊びに適した教材である。劇遊びを通して、繰り返しの楽しさや最後にみんなが池に落ちる場面のおもしろさを味わわせたい。子どもたちがそうやかばの人形を使ってそれぞれの役を演じ、絵本と同じように、そうの背中にかばをのせて遊べるようにする。絵本から飛び出したような大きな動物たちを自分たちで協力して作成することで、意欲的に学習に参加できるようにしたい。

1・2年生の児童は、劇遊びを楽しむことを通して、物語の展開を理解し、楽しむことをねらいとする。6年生の児童には、劇遊びをするための台本作りにも取り組み、物語の内容を自分たちの言葉として表現することも学習のねらいとして設定する。

7 単元の目標

- 「そうくんのおさんぽ」の内容を理解し、劇遊びを楽しむことができる。
- 自分の役を理解し、場面に即した台詞を考えたり表現したりすることができる。

8 指導計画（本時 14／15 時間）

	指導内容	時間	学習活動
第1次	「そうくんのおさんぽ」のお話を聞く。	1	・教師の読み聞かせを聞く。 ・感想や好きな場面を交流する。 ・劇遊びを知ることを知る。
第2次	劇遊びの準備をする。	3	・動物たちの人形を作る。 ・「そうくんのおさんぽ」を読み込む。
第3次	劇遊びをする。	2	・動物の人形を使って劇遊びをする。 ・お話の世界に入って劇遊びを楽しむ。
第4次	「そうくんのおさんぽ」の台本を作る。	4	・動物たちの台詞を考える。 ・考えた台詞をもとにして、劇発表用の台本を作る。

第5次	「ぞうくんのおさんぽ」の劇を発表する。	4 (本時)	- 新しい台本で劇遊びをする。 - 招待状を書く。 - 友だちを呼んで劇発表をする。
第6次	学習のまとめをする。	1	学習を振り返る。

9 本時の目標

○はっきりと大きな声で台詞が言える。

○登場人物の気持ちになって台詞を言ったり動いたりできる。

児童	目 標
A	- はっきりと大きな声で台詞を言うことができる。 - 場面に合った台詞を言うことができる。
B	- はっきりと大きな声で台詞を言うことができる。 - 登場人物になったつもりで劇遊びを楽しむことができる。
C	- はっきりと大きな声で台詞を言うことができる。 - 登場人物の気持ちになって意欲的に台詞を考えて言うことができる。

10 展開

時間	学習内容	指導上の留意点		準備物
		学級全体	個に応じた支援	
導入 10分	はじめのあいさつ めあてを知る。			めあての掲示
	どうぶつたちになったつもりで、げきあそびを たのしもう。	- どうすれば登場する動物の気持ちになれるのか、これまでの劇遊びを振り返らせる。 - 他学級の友だちや先生方が見に来ていることにふれ、みんなで劇を楽しめるように台詞や動きをゆっくり大きくすることを意識づける。	うまくできたことを個別に声かけすることで、本時の劇遊びについての意欲を高める。(B児)	
展開	劇遊びをする。 ・動物の人形をセットした後、自分の持ち場について準備をする。	・自分たちで活動できるよう見守り、必要に応じて支援する。	・お客さんがいて気持ちが高まり普段と違う様子が見られたときは、少し	劇遊びセット（動物の人形など）

15分	・はじまりの合図をする。 ・劇遊びをする。 参観した人たちの感想を聞く。	・後の振り返りで使う写真を撮影しておく。	時間を取り、落ち着かせてから始める。（A、B児） ・その場に応じた台詞を考えて言えたときは評価する。（C児）	カメラ
まとめ 10分	振り返りをする。 ・自分の台詞や動きがどうだったかを発表する。 ・友だちの台詞や動きがどうだったかを発表する。	・写真を見ながら頑張ったことや意識して工夫したことなどを子どもの言葉で話せるようにする。		写真を映すテレビ
10分	友だちを誘って劇遊びをする。	・来てくれた友だちを誘って「一緒に劇遊びをしよう」と声かけができるように促す。		

11 評価

児童	評価項目
A	・はっきりと大きな声で台詞を言うことができたか。 ・場面に合った台詞を言うことができたか。
B	・はっきりと大きな声で台詞を言うことができたか。 ・登場人物になったつもりで劇遊びを楽しむことができたか。
C	・はっきりと大きな声で台詞を言うことができたか。 ・登場人物の気持ちになって意欲的に台詞を考えて言うことができたか。

12 配置図（省略）

13 板書計画（省略）



相澤教授の“こんなこともできる”アドバイスコーナー

- ・いろいろな動物が出てくる劇のようですね。動物園見学などの校外学習を単元の中で扱い、思い出作文や絵の活動なども取り入れるなどして展開すると、多様な活動が経験できますね。子どもたちの関心・意欲も増すのではないのでしょうか。
- ・せっかくの劇作り。台本から作成した！ といった力の入れ方なら学習発表会（学芸会）で全校の児童や保護者の方に見ていただいくのもいいですね。授業参観にも活用できますね。
- ・児童の活動の様子を写真で記録しているとのことですね。一言添えてファイリングしていくと活動記録ポートフォリオのできあがり。何を経験してきたのかを振り返ることができると、これから何をやりたいのかといったことが見えてきます。経験は力なり！！

細案モデル2 生活単元学習

季節を意識してつくる冬のお楽しみ会

生活単元学習 学習指導案

〇〇〇〇 小学校

指導者名 〇〇 〇〇

1 日 時 平成〇年〇月〇日（〇） 〇：〇～〇：〇

2 対 象 〇〇学級〇組

第1学年1名 第4学年1名 第6学年2名 計4名

3 場 所 〇〇学級〇組教室

4 単元名 冬のお楽しみ会をひらこう

5 児童の実態

発達の段階は、4歳から10歳程度の学級である。

学年や発達の段階が異なるため、教科別の指導においては個別の課題で学習することが多い。これまでは学級集団の中でお互いを意識して活動することは少なかった。学級行事には楽しんで参加することができ、その活動を通して少しずつ学級の友だちの良さを見つけたり関わりが増えたりしている。

児童	実 態
A (1年)	・行事に楽しんで参加することができる。遠足では友だちと一緒に活動を楽しむことができた。 ・特定の色に対するこだわりが強く、彩色の際に同じ色を使うことが多い。見本を見て形を描いたり色を丁寧に塗ったりすることに集中して取り組むことができる。
B (4年)	・活動に対する意欲が高く、何でも「やりたい」と積極的である。行事や製作活動では学級の中心的な役割を果たすことができる。 ・絵を描くのが好きで、写真を見本として用意すると、より写実的な色付けができる。
C (6年)	・行事等の際、自分から進んで発言することは少ない。友だちの意見を聞きながら活動に参加することができる。 ・見本を提示するとそこから発想を豊かに広げることができ、楽しんで絵を描くことができる。
D (6年)	・行事に積極的に参加することができる。異年齢の友だちに対しても自分から声をかけ、関わりをもつことができる。学級活動でも自分の意見を主張するだけでなく、友だちの意見に耳を傾け、すり合わせを行うことができる。 ・絵を描くことや工作を好み、想像力を働かせて作品をつくり上げることができる。

6 単元設定の理由

本学級では、季節についての意識を高めることを目的として、季節にふさわしい飾りを作り学級経営を行っている。その中で、季節を意識できるような冬のお楽しみ会を計画した。

手本を示したり学習内容を予告したりすることで個々に力を発揮することができる子どもたちであ

る。周りの友だちを意識せずに活動することが多いが、学級の友だちと協力しながら取り組めるような単元を設定することで、協力する力や互いを認め合える力をはぐくみたい。

ステンドグラス作りでは、個々に作ったものを合わせて一つの作品に仕上げる。友だちと協力して一つの作品を作りあげることで、集団で活動することの楽しさを味わわせたい。一人一人が丁寧に作成したステンドグラスを、友だちと合わせて一つの作品にすることでより美しい作品となることを、実感させたいと考えている。

また、プログラム作りでは、夏の地域学校での経験を思い出し、分かりやすいプログラムにするためにはどのようなことに気を付ければよいかを話し合いながら進め、完成させたいと考えている。

7 単元の見通し

○季節に関心を持ち、冬の季節を知ることができる。

○楽しいお楽しみ会になるよう役割を分担して準備をすることを通して、活動に見通しや期待感を持ち、主体的に活動に取り組むことができる。

○お楽しみ会当日やお楽しみ会に向け、友だちと一緒に活動する楽しさを味わうことができる。

8 指導計画（本時 5/14 時間）

	指導内容	時間	学習活動
第1次	冬について知る。 ・調べる。	1	・冬らしいものとしてどんなものがあるか、調べる。
第2次	ステンドグラスを作る。 ・ステンドグラスを作る。 ・鑑賞をする。	5 (本時)	・色の作り方や塗り方を工夫しながらステンドグラスを作る。
第3次	プログラム・飾りを作る。 ・プログラム・飾り作り	3	・役割分担した自分の仕事を責任をもってやりきる。 ・用具の使い方に気を付けて作業する。
第4次	招待状を作る。 ・招待状を書く。	1	・ひらがな表を見ながら招待状を書く。(A児) ・招待したいという気持ちを手紙に表す。
第5次	お楽しみ会を開く。	1	・他校の友だちと一緒に遊んだり歌ったりする。
第6次	お楽しみ会新聞をつくる。 ・感想を話し合う。 ・新聞の書き方について知る。	3	・楽しかったことを絵に表す。(A児) ・新聞の書き方を知り丁寧語を使って新聞を書く。

9 本時の目標

○ステンドグラスの作り方が分かり、丁寧に製作することができる。

○行事に向け、友だちと一つの作品を仕上げる楽しさを味わうことができる。

児童	目 標
A	・冬のお楽しみ会で使う飾りとして、ステンドグラスを作ることができる。
B	・はさみやカッターナイフで丁寧に形を切り取り、ステンドグラスを作ることができる。 ・友だちの作っている作品を見て「いいな」と思うところを伝えることができる。
C	・色々なセロハンを見て、色の組合せを考えて作ることができる。

	・友だちの作っている作品を見て「いいな」と思うところを伝えることができる。
D	・セロハンを組み合わせて模様を作ることができる。 ・友だちの作品がよりよくなるような工夫点を教えてあげることができる。

10 展開

時間	学習内容	指導上の留意点		準備物
		学級全体	個に応じた支援	
導入 7分	はじめのあいさつ ステンドグラスの見本や写真を鑑賞する。	・ステンドグラスに対する関心を高め、製作への意欲につなげる。		モニター 見本
	みんなできょうりょくして冬のおたのしみかいのかざりをつくろう。 めあてを知る。	・一人一人で作ったものを組み合わせて一つの大きな作品にすることを意識づける。		めあての提示
展開 33分	ステンドグラスの作り方を知る。	・二つ折りにした紙を切って開くとどんな形に切れるのか、クイズ形式で確かめ、製作に、より興味がもてるようにする。	・実物を手に取らせ、関心が高められるようにする。(A児)	スタディ ガイド セロハン 画用紙 はさみ カッター ナイフ マジック セロハン テープ 型紙
	ステンドグラスを作る。	・材料や道具の置き場について、動きやすい動線と安全を考慮して配置する。 ・それぞれの児童が選んで製作できるように色々な種類の型紙やセロハンを用意する。 ・お互いの作っている様子が見合えるよう座席の工夫をする。 ・スムーズに次の活動に入れるよう、作業時間を知らせておく。	・活動が切り替えられるようタイマーをセットする役割にする。(A児)	タイマー
	途中鑑賞をする。	・自分が工夫したところや友だちの作品の好きなところを相互に伝え合えるようにする。		
	自分の作品を完成させる。	・手伝ってほしいことや助けてほ	・一つの作業に集	お助けカ

	みんなの作品を貼り合わせ、一つのステンドグラスを完成させる。	しいことがあれば担任や友だちに頼んでよいことを知らせておく。 ・実際に窓に貼り、教室を暗くして鑑賞し、完成を意識することで達成感をもたせる。	中できるよう適宜休憩を入れる。(D児)	ード
まとめ5分	感想を交流する。	・完成した作品を見た感想を言い合う中でお楽しみ会への期待感へつなげる。	・言語化しやすいようにことばカードを準備する。(A児)	ことばカード

11 評価

児童	評価項目
A	・冬のお楽しみ会で使う飾りとして、ステンドグラスを作ることができたか。
B	・はさみやカッターナイフで丁寧に形を切り取り、ステンドグラスを作ることができたか。 ・友だちの作っている作品を見て「いいな」と思うところを伝えることができたか。
C	・色々なセロハンを見て、色の組合せを考えて作ることができたか。 ・友だちの作っている作品を見て「いいな」と思うところを伝えることができたか。
D	・セロハンを組み合わせて模様を作ることができたか。 ・友だちの作品がよりよくなるような工夫点を教えてあげることができたか。

12 配置図（省略）

13 板書計画（省略）



相澤教授の“こんなこともできる”アドバイスコーナー

- ・ステンドグラスは一人ずつ制作するものだけではなく、複数の児童が協力して作る物もあって良いと思います。自分の思いを実現するステンドグラスと、お友だちと関わり合いながら一緒に作るステンドグラス。関わりの中から新たな気づきが生まれるかもしれませんよ。
- ・サプライズ企画として、校長先生や教頭先生に登場していただいても楽しいですね。
- ・市販のスポンジケーキを使うと、意外と簡単にデコレーションケーキが作れます。生クリームで飾り付けたり、イチゴやスプレーチョコをトッピングしたりすると楽しさも最高潮に……。食べるって目的意識が明確なのです。肥満や給食への配慮が必要ですけどね……。
- ・ハート型やクローバー型……。など、クラフトパンチを使って型抜きをした素材は、児童の実態に合わせて活用すると豊かな創造性を引き出すことにつながると思います。作業としても楽しいかも。
- ・他校の友だちと一緒に活動するのは楽しいですね。夏の七夕や春のひな祭り、秋のハロウィンなどシリーズ化してお互いに訪問し合うってことにしてはどうでしょう。毎年担当する行事がずれていくと生活経験の拡大にもつながりますね。

細案モデル3 生活単元学習

友だちと協力して行う調べ学習と発表

生活単元学習 学習指導案

〇〇〇〇 小学校

指導者名 〇〇 〇〇

1 日 時 平成〇年〇月〇日（〇） 〇：〇～〇：〇

2 対 象 〇〇学級〇組

第5学年1名 第6学年2名 計3名

3 場 所 〇〇学級〇組教室

4 単元名 小麦クンと小麦のナゾを調べよう

5 児童の実態

発達の段階は、5，6歳から10歳の学級である。

どの児童も話すことは好きであるが、言葉によってイメージを広げることや予測を立てることには弱さがある。

1学期の社会科「給食室で働く人々」の学習で、調理員さんや栄養士の先生がどのような仕事をされているのか、疑問に思うことや知りたいことを出し合い、インタビューをする取組を行った。この学習を通して、担任以外の人から話を聞いて知らなかったことを知る体験をすることができた。自分が実際にインタビューすることで主体的な学習となった。

どの児童も絵を描いたり体を動かしたりしながら学習することが好きで、授業で視覚に訴える教材を使ったり体験を取り入れたりすることで、学習への意欲が増し、学習内容の定着にもつながった。

また、歌ったり踊ったりすることが大好きで、授業の中に歌や踊りを取り入れることが学習への意欲や集中への支援となる。

児童	実 態
A (5年)	・大変活発で体を動かすことがとても好きである。相手の行動や意図をある程度理解することができる。 ・言語理解や数の概念に弱さが見られるが、絵本「おまえうまそうだな」を使った授業では、主人公の気持ちに同化し、涙を流す場面が見られた。 ・食べ物の好き嫌が多く、その影響が日常生活にも表れる。
B (6年)	・歌うことや踊ることが好きで、授業の中で自作したリズムで歌ったり踊ったりして学習意欲を高めることができる。 ・言語理解に弱さがあり、相手の意図がとらえにくい、文章を書いたり読んだりすることは得意である。聞いたことを書いたり言い直したりすることで、正しくとらえられているか、自分でも確認できる。
C (6年)	・大変活発で体験的な学習には特に意欲的である。相手に寄り添い、自分を理解してもらおうという言動がよく見られる。

	・言語理解や数の概念に弱さが見られ、言語のみによる指示は理解できないことが多いので図や板書を使って支援している。
--	--

6 単元設定の理由

本学級の3名の児童に共通する課題として、うまくコミュニケーションをとりながら、対人関係を築いていくことに弱さがある。そこで、日々の学習やその他の活動において、互いの頑張りを見つけ、それに対して互いに励ましの言葉をかけ合っていく取組を行ってきた。

本単元は、国語科の「話す・聞く」の単元にある内容をベースとして、児童の実態に合わせて、より体験的な学習になるように設定している。

学習活動として、話し合い、調べ学習、インタビュー、感想を述べること、学習したことの発表会、発表を分かりやすいものにするための工夫点の交流、実習と、多様な活動を取り入れ、主体的な学習を目指しながら、一つ一つの学習場面において、互いの頑張っている姿が伝え合えるように考えた。

特に発表の場面では、3名で共通のテーマについて発表することとし、それぞれが自分の担当する内容を発表する中で、互いに助け合うことができるように考えている。

教材として児童の身近な食材である「小麦」を扱うこととしたのは、私たちの日常生活の中にすっかりと溶け込んでいる食材であるということと、様々なものに加工されその変化が多種に渡っていることで、姿を変える食材として、楽しみながら学習できると考えたからである。

様々な学習活動を通して、互いの頑張りや認め協力し合う中で、友だちの良さを見つけようとする力や、協力し合うことの大切さを感じ取れる力を育てたい。

7 単元の目標

○インタビューを通して、分かったことをワークシートやポスターにまとめることができる。

○調べて分かったことを、分かりやすく工夫をして発表することができる。

○学級内で、よりよい発表にするための教え合いができる。

○学習したことをもとにして、楽しみながら調理実習をすることができる。

8 指導計画（本時 7 / 17 時間）

	指導内容	時間	学習活動
第1次	麦について調べる。	6	・麦について知る。 ・調べ学習の計画を立てる。 ・インタビューの練習をする。 ・インタビューメモを作り、インタビューをする。 ・分かったことをまとめる。
第2次	発表する。	6 (本時)	・発表に向けてポスターを作り、分かりやすい発表の工夫をする。 ・発表に向けて必要なものを作る。 ・発表の練習をする。 ・発表会をする。

			・いろいろな国の、小麦を使った料理を調べる。
第3次	調理をする。	4	・小麦粉を使った調理の計画を立てる。 ・友だちと協力して調理実習をする。
第4次	振り返りをする。	1	・学習を振り返って、学習したことについて分かったことや感想を話し合う。

9 本時の目標

○聞く人にとって分かりやすくなるような発表の工夫を考えることができる。

○友だちの発表を聞き、良かったことや直したらよいと思うことを伝えることができる。

児童	目 標
A	・大きな声で、発表することができる。 ・学習内容が分かり、自分の考えたことを話すことができる。
B	・分かりやすい発表のための工夫を考え、工夫を取り入れた発表をすることができる。 ・友だちの発表がよりよくなるような意見を出すことができる。
C	・分かりやすい発表のための工夫を考え、工夫した発表をしようとするすることができる。 ・友だちの発表の良さを見つけ、伝えることができる。

10 展開

時 間	学習内容	指導上の留意点		準備物
		学級全体	個に応じた支援	
導 入 5 分	はじめのあいさつ めあてを知る。	・本時の学習内容を提示し、学習の見通しをもたせる。 ・「小麦クン」のキャラクターを登場させることで意欲につなげる。	・スケジュールで示し、安心させる。 (B児)	学習内容 カード めあての 掲示
	分かりやすい発表になるように発表の工夫をしよう。			
展 開 30 分	クイズに答え、分かりやすさについて考える。	・誰が見ても文字のみより、絵や写真入りの問いかけの方が分かりやすいことを考えさせる。	・解答者となって、どちらが分かりやすいかを実感させる。 (A児)	モニター ／PC
	ポスターを作る。	・分かりやすいポスターにするために必要なことを考えさせ、絵や文で表すことを確認できるようにする。	・枠のある用紙を準備して作業に入りやすくする。(A、C児)	画用紙 色鉛筆 マジック
	発表する。(友だちの発表を聞	・ポスターを提示して発表させ	・BC児の後で発表	作成した

	く。)それぞれの発表について話し合う。	る。 ・友だちの発表の良かった点や改善点を話し合い、より分かりやすい発表について考えさせる。	させることで、モデルをしっかり見せる。(A児)	ポスター
まとめ 10分	この時間の学習で頑張ったことを発表する。 「パンのマーチ」を歌う。	・次時への見通しにつながるような助言をする。 ・好きな活動を入れ、次時への学習意欲をもたせる。	・毎回同じ曲で終わることで安心と同時に次時への意欲をもたせる。(B児)	CD

11 評価

児童	評価項目
A	・大きな声で発表することができたか。 ・学習内容が分かって、自分の考えたことを話すことができたか。
B	・分かりやすい発表のための工夫を考え、発表項目に沿った分かりやすい発表ができたか。 ・友だちの発表を聞き、友だちがやる気になるような声かけをすることができたか。
C	・分かりやすい発表のための工夫を考え、発表の内容を整理して発表することができたか。 ・友だちの発表を聞き、友だちの良さを見つけて伝えることができたか。

12 配置図（省略）

13 板書計画（省略）



相澤教授の“こんなこともできる”アドバイスコーナー

- ・児童が小麦に関心をもつために、栽培活動などを実際に行ってみるのも良いと思います。「春まき小麦（春小麦）」は3～4月に種をまき9～10月に収穫をします。成長観察などを取り入れてもよいかな。
- ・小麦はいろいろな物に変身しますね。和なら「うどん」、「お好み焼き」、「たこ焼き」、洋なら「パスタ」、「マカロニ」、「ラビオリ」、「パン」、中華なら「餃子（の皮）」、「刀削麺」など・・・かな（笑）。パスタマシンが一台あると便利です。用途は多様。おすすめです。
- ・校内の調理員さんや栄養教諭の方にお話を聞くことも良いけれど、近くにパン屋さんやうどん屋さんがあるならば（手作りのです）、お願いをして見学させていただくのもいいですね。きっと関心が高まるはず。ただし、小麦やそばなどは食物アレルギーには気をつけるようにしましょう。
- ・「パンのマーチ」という曲を毎回歌うようですが、自分たちで「小麦クンの唄」、「小麦賛歌」などを作詞、作曲してみるのも楽しいですね。私の経験でも、昔作った宿泊学習の歌を、当時の先生たちが集まると、今でも歌います。「みんなで行こう♪バースに乗って♪宿泊学習・・・」という歌ですけどね。

細案モデル4 生活単元学習

季節行事を楽しむどんぐり祭り

生活単元学習 学習指導案

〇〇〇〇 小学校

指導者名 〇〇 〇〇

- 1 日 時 平成〇年〇月〇日（〇） 〇：〇～〇：〇
- 2 対 象 〇〇学級〇組（知的障害学級） 第5学年1名
〇〇学級〇組（肢体不自由学級）第4学年1名 第6学年1名 計3名
- 3 場 所 〇〇学級〇組教室
- 4 単元名 どんぐり祭りをしよう
- 5 児童の実態

発達の段階は、4歳から7歳あたりのグループである。

2学級合わせて3名という小さな集団であるが、朝の会では毎日、「えいえい、オ～ッ！」と元気なかけ声で1日のスタートをきることができる。

日常生活の指導と生活単元学習は2学級合同で実施しており、学習の振り返りなどで感じたことを発表し合う場面を設けている。その中で、「うまくできるようになったなあ～、すごいなあ。」「ぼくもがんばろう。」など、お互いのがんばりを認め合いながら刺激を受け合っている。友だちががんばっている姿を応援したり、困っているときには助けたりすることができる。しかし、慣れた集団の中でのやりとりでは伝わることも、別の相手に伝えようとするときうまく伝えられないことがある。

児童	実 態
A (5年)	・以前は、友だちに話しかけられたとき黙り込んでしまっていたが、スピーチの学習等を通し、話す・聞く姿勢が意識できるようになり、変化が見られている。 ・自分の好きな話題で一方的に話してしまうことがある。 ・文章問題では立式に戸惑うことがあるが、計算問題は順序正しく解くことができる。
B (4年)	・脳性麻痺があり、移動には自走式の車椅子を使用している。 ・集団での活動を好み、交流学年との学習に意欲的に取り組むことができる。 ・初めて出会う人にも自ら挨拶することができる。 ・できないと感じたときや興味のないことに取り組むときには、泣いたり怒ったりすることがある。
C (6年)	・脳性麻痺があり、移動には自走式の車椅子を使用している。 ・休み時間は友だちと約束をして、遊びに行くことが多い。 ・他者と関わることが好きであるが、相手の話を聞き終える前に自分の話をしてしまう等、相手の気持ちを意識した受け答えに課題がある。 ・身近にあるものや関心のあるものを操作することで、数字と具体物を一致させながら算数の学習に取り組みやすくなる。

6 単元設定の理由

生活単元学習では、2学級合同で野菜の栽培や調理、季節の行事に関する活動などを行っている。

昨年度、「それぞれの季節を感じ取りながら、季節の行事などを楽しむ。」「自分たちで企画運営して、全校児童と積極的に交流することで、主体性やコミュニケーション能力を高める。」というねらいで、“こいのぼりリレー”や“七夕飾り”、“どんぐりスタジアム”等に取り組んだ。それらの活動の中で、全校児童の前で堂々と司会進行したり、全校児童との交流を楽しんだりすることができた。

しかし、初めての取組ということもあり、企画運営の仕方や準備物の用意などを教師が提案したり、支援したりすることが多かった。今年度は、昨年度の経験を生かしながら、「自分たちで考え、見通しをもって行動する力」や「学習したことを生かす力」、「相手に分かるように話す力」などを伸ばしていけるように活動内容を考え、取組（“こいのぼりリレー”や“支援学校児童との交流会”、“夏祭り”等）を行ってきた。その中で、児童3人で、アイデアを出し合って内容を決めたり、お互い協力しながら準備をしたり、大まかな見通しをもって主体的に活動することができた。

本単元では、児童たちが好きな“どんぐり”を使っのコーナーを一つずつ担当させ、それぞれの児童の実態に合わせて、コーナーの準備やルールの説明ができるようにさせたい。担当するコーナーでは、ゲームの得点など、児童それぞれの学習課題を取り入れて、数を数えたり計算したりできるように設定し、楽しく意欲的に活動する中で、学習の定着を図りたい。

また、先生や友だちをお客さんとして迎え、様々なやりとりをする体験を通して、コミュニケーション力をさらに高めていきたい。

7 単元の目標

○お客さんが楽しめるような内容の工夫や、コーナーを楽しんでもらえるような説明の工夫を自ら考えて活動することができる。

○自分の役割として、正しく数を数えたり、計算をしたりすることができる。

8 指導計画（本時 14・15／16 時間）

	指導内容	時間	学習活動
第1次	どんぐり祭りの計画を立てる。	2	・どんぐり祭りの内容を考え、計画を立てる。
第2次	どんぐり祭りの準備をする。	10	・看板やポスター等、必要なものを友だちと協力して作る。 ・コーナーの準備をする中で、実際に試しながらコーナーの内容を工夫する。 ・遊び方を説明する文章を考え、発表の練習をする。 ・リハーサルをする。
第3次	どんぐり祭りを開く。	3 (本時)	・3人で協力してどんぐり祭りを開く。 ・担当するコーナーの遊び方を説明し、コーナーの運営をする。
第4次	振り返りをする。	1	・どんぐり祭りを振り返り、まとめをする。

9 本時の目標

○担当するコーナーで、お客さんに説明したりコミュニケーションをとったりして自分の役割を果たすことができる。

○正しく数を数えたり、計算したりすることができる。

児童	目 標
A	・自分で言葉を付け加えながら、コーナーでの遊び方を順序立てて説明することができる。 ・かけ算やたし算を使って、点数を正しく計算する。
B	・コーナーの遊び方について、分かりやすく説明することができる。 ・種類ごとに分けて、数を数えることができる。
C	・コーナーの遊び方について、順序立てて説明することができる。 ・10のまとまりを意識しながら、点数を求めることができる。

10 展開

時間	学習内容	指導上の留意点		準備物
		学級全体	個に応じた支援	
導入 10分	はじめのあいさつ 自己紹介をする。 めあてを確認する。	・めあてを大きな声で読ませ、意欲的に取り組もうとする雰囲気作りをする。		めあての提示
	コーナーの仕事をしっかりとつとめ、来てくれた人が楽しめるどんぐり祭りにしよう。			
展開 50分	どんぐりの楽器を演奏する。 ポイントを発表する。 コーナーを開く。 ・どんぐりスキージャンプ ・どんぐりひろい ・どんぐりパチンコ	・来てくれた友だちに、手作り楽器の演奏であることを伝え、音色を楽しんでもらえるようにする。 ・3人がそれぞれ担当するコーナーでのポイントを伝えられるようにする。 ・担当するコーナーの運営がしやすいよう、教室内の動線をしっかり示す。	・ポイントを明確化して話せるようにポスターにポイントメモをつけておく。 (A児) ・見逃しやすい箇所をよく見るように様子を見て声をかける。 (A児) ・種類ごとの容器に移し替えることで、正	どんぐりの楽器 CD ポスター 看板 教室案内 図 ルールの提示 どんぐり

			確に分けて数えることができるようにする。 (B児) ・点数ごとに違う容器に入れながら数え、正確に計算させる。 (C児)	それぞれのコーナーで使う道具
	コーナーを終了する。			
ま と め 10 分	振り返りをする。 ・感想を発表する。 ・感想を聞く。 片付けをする。	・めあてやポイントに沿って振り返ることができるようポイントを提示する。		

11 評価

児童	評価項目
A	・自分で言葉を付け加えながら、コーナーでの遊び方を順序立てて説明することができたか。 ・かけ算やたし算を使って、点数を正しく計算できたか。
B	・コーナーの遊び方について、分かりやすく説明することができたか。 ・種類ごとに分けて、正しく数を数えることができたか。
C	・コーナーの遊び方について、順序立てて説明することができたか。 ・10のまとまりを意識しながら数え、正しく点数を求めることができたか。

12 配置図（省略）

13 板書計画（省略）



相澤教授の“こんなこともできる”アドバイスコーナー

- ・“こいのぼりリレー”や“七夕飾り”、“どんぐりスタジアム”など楽しんだ経験を、これからの活動に生かしたいですね。写真に一言を添えたり、作った物をファイルしたりして一人一人のポートフォリオを作るといいですね。その時の活動を振り返ることができるのって大切です。
- ・「準備をする中で、実際に試しながらコーナーの内容を工夫する」ことはとても良いですね。自分たちが「楽しく遊んだことを友だちに伝えたい！」という気持ちをはぐくむことってとても大切です。
- ・どんぐりは自分たちで集めてくるのでしょうか。その種類を調べたり、スケッチしたり、プランターに植えてみたり・・・ストラップ作りも楽しいですよ。どんぐり銀行などもあるそうですね（参考：<http://www.pref.kagawa.lg.jp/midoriseibi/donguri/totoro/top.htm> など）。
- ・どんぐりは乾燥に弱く、虫が湧いたりすることがあります。保存法としては一週間くらい冷凍庫に入れた後、乾燥させると良いですよ。
- ・「どんぐりスキージャンプ」や「どんぐりひろい」、「どんぐりパチンコ」などは休み時間にも友だちと遊べるようにするといいですね。交流が深まります（＾＾）。

細案モデル5 生活単元学習

友だちと協力して行う夏祭り

生活単元学習 学習指導案

〇〇〇〇 中学校

指導者名 〇〇 〇〇

〇〇 〇〇

1 日 時 平成〇年〇月〇日（〇） 〇：〇～〇：〇

2 対 象 〇〇学級〇組・〇組（2学級合同）

第1学年1名 第2学年1名 第3学年1名（知的障害学級）

第1学年1名 第2学年1名（自閉・情緒障害学級）

計5名

3 場 所 〇〇学級〇組教室

4 単元名 夏祭り

5 生徒の実態

発達には7歳から10歳あたりのグループである。

知的障害学級の4名は、全員言葉でのコミュニケーションができる。2語文から3語文程度で話す生徒から自分の身の回りで起こったことをすらすらと話すことができる生徒までおり、コミュニケーション力については個人差がある。

自閉・情緒学級の生徒は2名とも自閉症スペクトラムの診断を受けており、学習の際にはそれぞれの特性に応じた指導・支援が必要である。予定を伝え、見通しをもたせることで集団活動に参加できるが、予想外のことがあると固まってしまうたり、興奮が高まったりすることがある。

数学については、全員が加法・減法の意味を理解している。お金の扱いに関する実態は様々で、日常的に自分で計算しながら買い物をしている生徒から、100円までのお金を数えることを学習中の生徒までいる。

これまで、全員で目的を決めてそれに向かって準備をしていく単元を2学級合同で繰り返しており、生徒たちは一つの目的意識をもって物事に取り組むことができる。今年度は2学級合同で授業をすることが多く、生徒たち6名は仲がよく、休み時間もよく一緒に遊ぶ姿が見られる。

生徒	実 態
A (1年)	- 筆算や計算機を使って、3桁の加法減法をすることができる。お金の扱いには慣れておらず、100までの金額のお金を数えることができるが、間違えることがよくある。 - 大きな声であいさつをすることができる。言葉は不明瞭であるが、日常生活の中で積極的に人に話しかける様子がある。
B (2年)	- 加法減法の意味を理解して、計算機を使って答えが100までの計算をすることができる。 - 一枚ずつ硬貨を数えて、100円までのお金を数えることができる。ただし、50円玉、5円玉は数えることが難しい。 - 口数は少ないが、ゆっくりであれば質問に答えることができる。自信がないためか、緊張する場面では声が小さくて聞き取れないことがある。

C (3年)	・ 加法減法の意味は理解しているが、計算をする時は指を折って数えて計算している。計算機を使用することで、大きな数の計算をすることができる。 ・ お金の扱いには慣れており、ゆっくりであれば、硬貨を数えて 1,000 円までのお金を数えることができる。 ・ 冗談が好きで、休み時間によく言っている。学級のリーダーとしての自覚が感じられる言動があり、他の生徒からも頼りにされている。
D (1年)	・ 4桁の加法減法がすぐにできる。日常的に自分で計算して買い物をしている。 ・ 学習内容を言葉で説明するよりも、視覚的に提示した方が理解しやすい。 ・ 簡単なやりとりは言葉ですることができるが、ショックなことがあったり失敗したりすると、固まってしまう、適切な対応ができなくなることがある。
E (2年)	・ 基本的な4則計算ができる。日常的に自分で計算して買い物をしている。 ・ 言葉を使ったやりとりができるが、好きなアニメのキャラクターに似せた独特の言葉遣いで話す。 ・ 興奮しやすく、特に自分のやり方を変更させられると衝動的に動くことがある。

6 単元設定の理由

〇〇学級では、毎年、七夕の日に合わせて交流学級を招いて夏祭りを行い、屋台を出店している。屋台の運営には、「運営計画を立てる」、「お客さんとのコミュニケーション」、「お金の計算」、「ゲームを段取りよく進行する」等の力が必要である。今年の生徒たちはお金の取り扱いや計算を素早く行うこと、相手に伝わるように要点を話すことなどに課題があるため、「お金」と「コミュニケーション」に特に焦点を当てて夏祭りを実施する。なお、お店はそれぞれ役割を分担して運営するが、役割の分担は1日目と2日目で交代する。お金はゲームのコインを加工したものを使用する。

お店の運営を通して、お金の扱いに慣れたり、場に合った言葉遣いで人とやり取りをする力を付けさせたりしたい。

7 単元の目標

- 「いらっしゃいませ」や「何にしますか」等の言葉でお客さんとやりとりをすることができる。
- 素早くおつりの計算をしたり、硬貨を数えたりすることができる。
- 自分たちでやりたいお店を考えて、魅力的なお店になるように工夫することができる。

8 指導計画（本時8／9時間）

	指導内容	時間	学習活動
第1次	お祭りの計画を立てる。	1	・ お祭りをすることを決め、どんなお店をするか決める。
第2次	お祭りの準備をする。	4	・ お店の景品を作成したり、看板を作ったりしてお店の準備をする。
		1	・ それぞれの当日の役割を決め、練習をする。
第3次	お祭りをする。	2 (本時)	・ お祭りに向けて店の準備やリハーサルを行う。 (お祭り当日の午前中に行う。)
第4次	まとめを行う。	1	・ 2日連続で店を開店する。 (交流学級の生徒が来店する。)
			・ お祭りの当日の写真などを使って学習のまとめをする。

9 本時の目標

○お客さんにあいさつをしたり、やり取りをしながらゲームの進行をしたりすることができる。

○自分に合った方法でお金を計算することができる。

生徒	目 標
A (ゲーム進行係)	・「的当てゲーム」に使う道具を渡したり、ゲームの説明をしたり、的のポイントに応じてチケットを交換したりして、ゲームを進行することができる。
B (会計係)	・大きな声で「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」とあいさつをすることができる。 ・電卓を使って計算し、お釣りを渡すことができる。
C (ゲーム進行係)	・「魚釣りゲーム」に使う道具を渡したり、ゲームの説明をしたり、釣った魚をチケットに交換したりして、ゲームを進行することができる。
D (景品交換係)	・「どの景品がほしいですか」と尋ねて、希望された景品を渡すことができる。 ・景品の特徴を尋ねられた時、説明することができる。
E (会計係)	・「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」「お釣りです」等、丁寧な言葉遣いでお客さんとやりとりすることができる。 ・お金を受け取り、計算してお釣りを渡すことができる。

10 展開

時 間	学習内容	指導上の留意点		準備物
		学級全体	個に応じた支援	
導 入 7 分	本時の内容を確認する。 本時の目標を確認する。	・板書などで視覚的に情報が入れられるようにする。		掲示物
	自分の役割をしっかりと行い、お客さんに喜んでもらおう。			
7 分	自分の役割を確認する。 お客さんに喜んでもらうためにはどうすればいいか考え発表する。	・みんなの前で恥ずかしがらずに発表できるように、前向きな言葉がけをする。		
展 開 35 分	各店販売を始める。 ・大きな声で呼び込みをする。 ・店のルールを説明する。 ・お釣りを間違えずに渡す。 ・ゲームを進行する。 ・景品を渡す。	・各コーナーがスムーズにできているか確認し、必要に応じて支援を行う。 ・生徒たちの意欲が高まるように、肯定的な言葉がけをする。	・進行手順表を用意する。(A児) ・接客で困った時に、指導者に助けを求められるように「『手伝ってください』カード」を用意する。(E児)	各 店 舗 備 品 説 明 チ ラ シ お 釣 り お 釣 り 入 れ

まとめ 8分	参加者からの感想を聞く。 担任からの評価を聞く 次回の内容を知る。	・今回の良かったところと課題点を視覚的に分かるように板書する。 ・課題点については具体的な解決方法を考えさせる。		
-----------	---	---	--	--

11 評価

生徒	評価項目
A	・「的当てゲーム」に使う道具を渡したり、ゲームの説明をしたり、的のポイントに応じてチケットを交換したりして、ゲームを進行することができたか。
B	・大きな声で「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」とあいさつをすることができたか。 ・電卓を使って計算し、お釣りを渡すことができたか。
C	・「魚釣りゲーム」に使う道具を渡したり、ゲームの説明をしたり、釣った魚をチケットに交換したりして、ゲームを進行することができたか。
D	・「どの景品がほしいですか」と尋ねて、希望された景品を渡すことができたか。 ・景品の特徴を尋ねられた時、説明することができたか。
E	・「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」「お釣ります」等、丁寧な言葉遣いでお客さんとやりとりすることができたか。 ・お金を受け取り、計算してお釣りを渡すことができたか。

12 配置図（省略）

13 板書計画（省略）



相澤教授の“こんなこともできる”アドバイスコーナー

- ・毎年、夏祭りを計画しているということですね。「歓迎会」、「秋祭り」、「お別れパーティー」などシリーズで企画していくと、ゲームの説明やお客様への対応がもっと上手になるかもしれませんね。
- ・「魚釣りゲーム」は市販のものもありますが、魚の種類について図鑑で調べたり、水族館に行ってみたり（近くにあればですが）、熱帯魚屋さんに行ったり（これも近くにあればですが）した上で、自分たちで制作すると愛着が生まれますね。
- ・何曜日の昼休みは特別支援学級の「ゲームの日」、のようにして交流学級の友だちに来てもらって一緒に遊ぶのも良いですね。単発で終わらせるのはもったいないと思います。
- ・「お客さんとのコミュニケーション」を学ぶために、実際にお祭りに必要なものを「買い物」に行く活動を取り入れ、お店の方がどのような対応をするのかを経験してみると良いと思います。お客様対応マニュアルなどを作成してみるのも良い学習になります。
- ・ゲームの説明マニュアルの作成もしてみても良いでしょう。実際にゲームをしながら作成すると、どのように説明をすれば良いのかということが実感できると思います。授業の最後にある、課題となった所の解決方法を考える場面でも「マニュアルのバージョンアップ」を考えることとすると具体的なイメージにつながると思います。

細案モデル6

知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科（算数）3段階
（特別支援学校小学部・中学部学習指導要領より）

重さの比べっこ

算数科 学習指導案

〇〇〇〇 小学校

指導者名 〇〇 〇〇

- 1 日 時 平成〇年〇月〇日（〇） 〇：〇～〇：〇
- 2 対 象 〇〇学級〇組
第3学年1名 第4学年1名 第6学年2名 計4名
- 3 場 所 〇〇学級〇組教室
- 4 単元名 くらべてみよう～おもい？かるい？～
- 5 児童の実態

発達段階は4歳から10歳程度であり、発達に差がある学級である。

算数の学習において、計算方法を覚えて答えを求めることはできるが、数量の概念の理解は難しい児童が多い。重さについては、物を手で持ち上げたり身に付けたりするとき「重い」「軽い」と感覚的にとらえる経験はある。調理などの場面ではキッチンスケールや上皿ばかりを使用したことがある。また、4年生以上の児童はこれまでの算数の学習において重さの学習をしている。しかし、大きさと重さの混同が見られ、1kgと1gのとらえ方は曖昧で、重さの保存性についての理解は不十分である。

学習全般に対して興味関心は高く、特に全員でクイズを解くことや、体を動かし、手で操作して実験をすることに生き生きと取り組むことができる。取り組んでもうまくできないと自信をなくして意欲がなくなることがあるため、細かく前向きな評価をすることや、遊び感覚で様々な教具を使って取り組ませること、苦手な分野では見通しをもたせ、繰り返し同じパターンの学習を積み重ねることなどを大切にしている。

児童	実 態
A (3年)	- 何かを持ち上げたとき何かと比べて、「重い」「軽い」という言葉を使うことができる。 - 重さのとらえ方は感覚的で、形や大きさを重さの概念と混同している。
B (4年)	- どちらが重いか2つの物の重さを手で持って比べることができる。 - 見た目では重さの判断してしまうことがあり、重さについての概念的なとらえは曖昧である。
C (6年)	- 手で持って2つの物の重さを比べたり、キッチンスケールで調理に使う材料の重さを量ったりすることができる。 - 重さの単位（g、kg）について学習しているが、定着はしていない。
D (6年)	- 重さの単位（g、kg）について理解している。 - キッチンスケールや上皿ばかりを使って重さを量ることができる。



4歳あたりの発達

10歳あたりの発達

6 単元設定の理由

学級の子どもたちは、日常生活の中で「重さ」について感覚的にとらえてはいるが、量概念のとらえとしては曖昧である。ここでは、身の回りにある物を持って感じる手ごたえが「重さ」であることの理解や、天秤やゴムばかりを使って目で見て「重さ」を比べる活動を通じて、量概念としての「重さ」を体験的にとらえさせたい。また、粘土や砂を使い、形を変えたり分割したりする活動を通じて、形や体積と重さの関係を理解できるようにしたい。

本単元では、体験を中心とした学習を進め、その中で物の性質についての見方や考え方を育て、感じたことや考えたことを言葉で表現する力が付くように指導していきたい。この単元の学習後は、生活単元学習で調理等の活動にもつなげ、実際的な活動を通して力の獲得を図りたい。

7 単元の目標

- 様々な物を持って重さを感じたり、道具を使って重さを比べたりする中で、「重い」「軽い」の意味を理解することができる。
- 重さの比べ方が分かる。
- 重さ比べをして分かったことを、書いたり発表したりすることができる。

8 指導計画（本時 5/8 時間）

	指導内容	時間	学習活動
第1次	「重い」「軽い」を比べる。	2	• 身体を使って重さを比べる。（リュックを背負う。） • 手に持った感覚で重さを比べる。
第2次	どちらが重いか、重さを比べる。	2	• 予想をし、シーソーや天秤、ゴムばかりを使ってどちらが重いかを比べる。
	3つ以上の物の重さを比べる。	1 (本時)	• 「重さのチャンピオン」を予想し、ゴムばかりを使って重さを比べる。
第3次	形を変化させて重さを比べる。	2	• 粘土を分割したり形を変えたりすることで、重さが変わるかどうかを比べる。
第4次	同じ体積の物で重さを比べる。	1	• 同じ体積の、鉄、アルミニウム、木、プラスチック、発泡スチロールで重さを比べる。

9 本時の目標

- 3つ以上の物について重さ比べをすることができる。

児童	目 標
A	• 持ち上げてみて、「重い」「軽い」の予想を立てることができる。 • ゴムばかりを使って、重さ比べを楽しむことができる。
B	• 形や大きさを見て、どれが重いか予想することができる。 • 物を実際に持ち比べて、重さを比べることができる。
C	• 形や大きさを見て、どれが重いか予想することができる。

	・3つの物の重さを比べて順序づけをすることができる。
D	・いくつかのものの重さを一斉に比べる方法を考え、調べることができる。 ・3つの物の重さを比べ、形や大きさでは重さの判断ができないことを説明することができる。

10 展開

時間	学習内容	指導上の留意点		準備物
		学級全体	個に応じた支援	
導入 5分	はじめのあいさつ めあてを知る。 重さのチャンピオンを見つけよう	・答える順番を確認しておく。	・順番にこだわらず集中できるようにする。(B児)	めあての提示 名前カード
展開 30分	玉ねぎ、パプリカ、ねぎの重さについて「心で思ったチャンピオン」を考える。 「手で持った感じチャンピオン」を考える。 「本当の重さのチャンピオン」を確かめる方法を考える。 ゴムばかりを使って一度に確かめる。	・チャンピオンを選ばせ、表に貼らせる。 ・理由を、「大きさ」「中身」「形」の項目に分け板書で整理する。 ・順番に1人ずつ持って考えさせる。(30秒ずつ) ・考えが変わったら表で変更させる。 ・今まで使った道具を思い出して考えるよう助言する。 ・全員で確かめさせる。	・感じたことを素直に言葉で表現できるようにつぶやきを取り上げる。(A、B、C児) ・なぜそう思うのかを考えて発表させる。(D児) ・筋道だった意見にできるように助言する。(D児) ・ゴムばかりで確かめる活動を楽しませる。(A、B児) ・3つの物の重さの順序を確認する活動をさ	野菜 整理カード 表(自信度表) ※自分の答えにどれくらい自信があるかも同時に示す。 ・ぜったい ・たぶん ・ひょっとして ゴムばかり てんびん なかよしシーソー ゴムばかり

	素材を換えてくり返す。	・じゃがいも、サラダ菜、セロリ、の重さについて考えさせる。	せる。(C、D児)	野菜 名前カード 整理カード ゴムばかり
ま と め 10 分	学習のまとめをする。	・「〇〇を使って、〇〇のチャンピオンを〇〇ることができた」 という枠組みでまとめをする。 ・気付いたことを発表させる。	・言葉をはめ込めるシートを用意しておき、選択して使えるようにする。(A、B児)	まとめシート 支援シート

11 評価

児童	評価項目
A	・持ち上げてみて、「重い」「軽い」の予想を立てることができたか。 ・ゴムばかりを使って、重さ比べを楽しむことができたか。
B	・形や大きさを見て、どれが重いか予想をすることができたか。 ・物を実際に持ち比べて、重さを比べることができたか。
C	・形や大きさを見て、どれが重いか予想することができたか。 ・3つの物の重さを比べて順序づけをすることができたか。
D	・いくつかの物の重さを一斉に比べる方法を考え、調べることができたか。 ・3つの物の重さを比べ、形や大きさでは重さの判断ができないことを説明することができたか。

12 配置図（省略）

13 板書計画（省略）



相澤教授の“こんなこともできる”アドバイスコーナー

- ・身近に使う物で「軽い方が便利な物」、「重い方が役に立つ物」のように日常生活の中で考え、意識づけることを導入で考えてみるのも良いかなと思います。なぜ、軽重の比較を学ぶのか、子どもたちが学ぶ必然性を感じられると主体的・能動的な学習につながると思います。
- ・重さを知ることで便利なこと、役立つことなどにも気付かせたいですね。例えば、使った野菜の重さを量って何人分というレシピに従って調理するとか、エレベーター、トランポリンの重量制限とか・・・。
こうした活動を、算数ではあっても単元構成の中に取り入れる試みが必要と考えます。
- ・算数科の学習なのでゴムばかりやてんびんなどを使っていますが、身近な台ばかりや精度の高いデジタルはかりなども活用すると良いと思います。デジタルはかりには羽などの軽い物も計ることができる種類があるので、関心をもって取り組めるとと思います。シーソーなどはおもしろいですね。

略案モデル1 国語 言葉を使って表現しよう

国語科 学習指導略案

〇〇〇〇 小学校

指導者名 〇〇 〇〇

- 1 日時・場所 平成〇年〇月〇日（〇）〇校時 ・ 〇〇学級〇組教室
- 2 対 象 〇〇学級〇組 第3学年1名 4学年1名 5学年3名 計5名
- 3 単 元 名 ことばであらわそう
- 4 児童の実態

発達の段階は異なるが、仲良く学校生活を楽しんでいる。日常のお喋りはよくするが、生活の中で使っている物や身の周りで起こっていることにあまり関心をもたないことが多く、言葉の意味を知らないという実態がある。本単元では、絵本を使い、実物に触れたり、文章と照らし合わせたりしながら物の特徴を感じさせることで、言葉のもつ意味をつかませていきたい。

5 本時の目標

絵本「そらまめくんのベッド」に出てくる言葉の意味や様子を理解する。

6 本時の展開（3/6時間）

時間	学習内容	指導上の留意点		準備物
		学級全体	個に応じた支援	
導入 5分	はじめのあいさつ 学習の流れを知る。 めあてを知る。	・学習の流れを確認し、見通しをもたせる。		・スケジュールカード ・めあての提示
「そらまめくんのベッド」について知ろう。				
展開 35分	ビンゴゲームをする。 「そらまめくんのベッド」の読み聞かせを聞く。 「そらまめくんのベッド」について読み取る。	・豆や豆の名前に興味をもてるよう、豆の名前でビンゴゲームをさせる。 ・実物も用意しておく。 ・場面の理解ができるようにゆっくり読む。 ・絵本に出てきたものと実物をマッチングさせる。 ・写真を貼り付けてベッドの様子を書き込む。	・豆の名前カードを使ってビンゴ表を埋めさせる。 ・実際にさやを開けて触って観察させる。	・いろいろな豆 ・ビンゴ表 ・カード ・絵本 ・パワーポイント ・そら豆 ・写真
まとめ 5分	本時の学習を振り返る。	・具体的な場面を提示して振り返らせるようにする。		・場面の絵

略案モデル2 外国語 一般動詞の疑問文

外国語 学習指導略案

〇〇〇〇 中学校

指導者名 〇〇 〇〇

- 1 日時・場所 平成〇年〇月〇日（〇）〇校時 ・ 〇〇学級〇組教室
- 2 対 象 〇〇学級〇組 第1学年2名 2学年3名 3学年1名 計6名
- 3 単 元 名 Question!
- 4 生徒の実態

話をしたり、歌を歌ったりするのが好きで、積極的に活動ができる生徒が多い。ただ、発達の段階に応じた配慮が必要である。英語に興味・関心をもってほしいので、ゲームをしながら文法事項が覚えられるように留意している。

- 5 本時の目標
一般動詞「like」を使って、質問ができる。

- 6 本時の展開（6/6時間）

時間	学習内容	指導上の留意点		準備物
		学級全体	個に応じた支援	
導入 5分	はじめのあいさつ はじめましてチャンツを歌う。 スポーツチャンツを歌う。 めあての確認をする。	・歌詞を見ながら歌わせる。		・CD ・歌詞
	めあて：「like」を使って質問ができる。			
展開 40分	3人1組になり、質問を考える。 Do you like ◻ ? の ◻ に入る語を考え、ワークシートに記入する。 3人1組になり、参観に来られている先生方に質問をする。	・ワークシートに記入させる前に、全体で一般動詞「like」を使った疑問文の作り方の確認をする。 ・英語で質問できているか観察し、質問できていないようであれば支援する。	・書きやすいワークシートを選択させる。 ・必要に応じて発音ヒントカードを使わせる。	・ワークシート ・発音ヒントカード
まとめ 5分	本時の学習を振り返る。	・本時の良かったことを賞賛したり、次時へ意欲がにつながるよう本時の学習のポイントを伝えたりする。		

4 障害種に応じた教育的対応と学習指導案への記載事項

様々な障害種の児童生徒に指導をする際に参考としていただけるように、それぞれの障害種の基本的な教育的対応と、学習指導案への記載事項についてまとめます。

どの障害種においても、共通して次の3点についておさえておくことが大切です。

- 個々の児童生徒の可能性を最大限伸ばすための教育的対応を行うこと
- 障害の視点だけでなく、生活年齢、児童生徒の得意なこと等様々な視点で実態把握をすること
- 必要な教育的配慮については障害種一律ではなく、児童生徒個々の実態を踏まえて検討すること

また、複数の障害が重複する場合は、その一つ一つがもたらす困難だけでなく、重複により追加・増幅される困難があることに留意して指導を行う必要があります。



—視覚障害—

<教育的対応>

視覚的な情報を補う手立てとして、視覚以外の感覚情報を獲得する教育活動を充実させることが基本となります。

- 保有視力の活用 ○視覚以外の感覚の活用（触覚） ○安全確保（移動・学習環境）
- 弱視レンズ、拡大読書機等の視覚補助具活用の指導計画を立てることも必要です。

<学習指導案への記載事項>

視力の程度や眼疾患の状態などが分かれば、必要な特別の指導や教育的配慮の内容がある程度明らかになるため、指導案に個々の児童生徒の視力の状態（視機能評価）などを記す場合もあります（図1）。視力値とともに、児童生徒の日常生活の様子などから視力の活用状況を把握し、教育的対応を検討する必要があります。

- 明るさ ○座席位置 ○適切な教材 ○失明を避けるための運動制限の必要性 等

児童 生 徒 名	眼疾患名						
	遠見視力	右		左		両	
	近見視力	右		左		両	
	最大視認力						
	視野、羞明（まぶしさ）等						

図1 指導案に記載する視力の状態の例

—聴覚障害—

<教育的対応>

児童生徒の聴覚の状態を的確に把握し、これまでに受けた教育的配慮の情報収集を行った上で児童生徒の実態に応じて次のような教育的配慮を検討します。

- 口形がはっきり見える座席位置の配慮
- 理解しやすい話し方の工夫
- 視覚的に見て分かるような情報や教材の提示
- 教室内のノイズの軽減
- FMシステムの活用等の環境整備
- 聴覚活用の状況に合わせたコミュニケーション手段の選択
- コミュニケーションの困難により教室内的孤立感を感じさせないような学級や学校の雰囲気づくり

<学習指導案への記載事項>

児童の実態として言葉の発達状況や、聴力の状況を含めた普段の聴覚の活用全般について記述し、それに対応した教育的配慮について記述することがあります。

—肢体不自由—

<教育的対応>

身体機能面では、姿勢の保持・変換、移動運動、手の操作などの観察の視点が重要です。

的確な実態把握により一人一人の教育的ニーズを把握した上で、自立活動の視点を意識して個別の指導計画を作成し、日々の授業につなげることが重要です。

- 直接的な体験の不足を補うような指導内容や方法を計画
- ボディーイメージを高める丁寧な指導（学習に影響を及ぼすことがあるため）
- 本人の「やりたいこと」と「できること」のギャップを補うための支援
- 自発的な動きを促し、達成感を感じ取ることができる取組
- 表出・表現する力の育成



<学習指導案への記載事項>

本人の力を最大限に引き出すための姿勢づくり、補助具の活用、教材の工夫、場の設定等について記述することがあります。

—病弱・身体虚弱—

<教育的対応>

病弱教育においては、次のような状況を理解した上で指導に当たる必要があります。

- 医療的な治療だけでなく、学習や病気、治療への不安、生活規制等によるストレスへのこころのケアが必要な場合があること
- 入院や通院等のため学校で学習できないことが繰り返し起こり、その結果、学校での学習内容の積み上げができていなかったり、学習空白があったりすること
- 病名・病状等について個人情報の取扱いについて検討が必要であること
- 病気の自己管理能力を育成する必要があること

<学習指導案への記載事項>

個々の病気の状態等に応じて、休憩時間の取り方、体育などの実技における配慮点、体調や服薬に関する事項等に留意して作成する必要があります。必要な配慮は病気の状態や本人の心身の状態と密接に関係するため、主治医や保護者と十分に連携する必要があります。

—自閉スペクトラム症—（DSM-5による。診断名については現在混在期である。）

<教育的対応>

自閉スペクトラム症の中でも障害の程度や行動の特性が一人一人異なるため、実態を多面的にとらえる必要があります。

- 身辺自立の状態
- 集団参加の状態
- 学力
- 感覚刺激への反応
- 行動上の問題

適切な対応があれば、不登校や非行などの二次的な症状を防ぐことができます。適切な指導や、周囲の適切な関わりを継続的に行うことで、生活上や学習上の困難が改善することも多く見られます。

- 図や写真等の視覚を活用した情報提供
- 視覚的に学習順序を分かりやすくする
- クールダウンのための場所の確保
- 感覚の偏りを踏まえた校内環境の整備 等

<学習指導案への記載事項>

本人の使いやすいように工夫された手順表やスケジュールなどの支援ツールについて、記述することがあります。

(コラム) 授業づくりの思い出

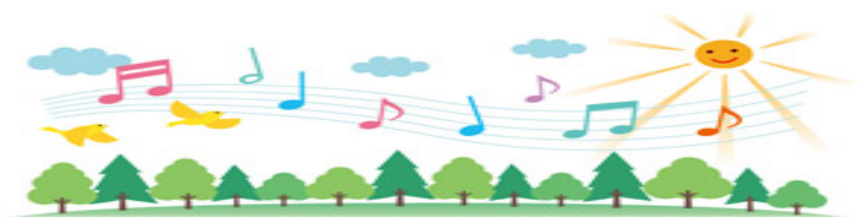
京都教育大学 相澤雅文

私の初任地は知的障害養護学校（現：特別支援学校）でした。小学部低学年の6名を担当することとなりました。大学で特殊教育（現：特別支援教育）を学んだことのない私にとっては全くの未知の世界でした。小学部主事の先生も心配だったのでしょうね、毎日毎日、時間があれば私のクラスに顔を出して、子どもたちへの指導を通して、間接的に私への指導を行ってくださいました。今思えばモデリング、インストラクション・・・ですかね。とにかく教科書を使わない授業に、「何を教えれば良いのだろう」と日々戸惑っていたことを思い出します。

小学部低学年の先生方で授業づくり（チーム・ティーチングが中心でした）をするのですが、話し合いの際に意見を述べてもなかなか採用してもらえませんでした。正直、「転勤したいなあ」とも考えていました。そんな悶々とした日々を送っていた私に、チャンスは突然やってきました。VTR（当時は最新の機器）を使った授業のアイデアが採用されたのです。

それはこうです。歌のお兄さんが登場する VTR を作成し（当然！歌のお兄さんは私です、若かった・・・）、子どもたちにテレビで見せるのです。VTRを見た後、子どもたちが後ろを振り返ると・・・そこには VTR で見たのと同じ装飾と、あのギターをもったお兄さん（私です）が立って微笑みながら、「やあ、こんにちは。みなさん、一緒に歌いましょう・・・」と授業が展開していく・・・という趣向です。

子どもたちのうけがどうだったかははっきりおぼえていませんし、今となっては「わーっ」と恥ずかしくて叫びたくなるようなことなのですが、そうした授業づくりが楽しくなって、今に至っているというわけです。



（資料1）学習指導案作成のポイント

〇〇〇 学習指導案

教育課程上に位置付けられた各教科、領域及び各教科等を合わせた指導を記入する。

例）「国語科 学習指導案」
「生活単元学習 学習指導案」

〇 〇 〇 学 校
指導者 〇 〇 〇 〇

1 日時 平成〇年〇月〇日（〇）〇：〇～〇：〇

2 対象 〇〇学級 第〇学年〇名 第〇学年〇名 第〇学年〇名 計〇名

3 場所 〇〇〇〇

4 単元（題材・教材）名

単元：学習内容の有機的なまとまりを示す。

題材（教材）：教科における系統性を背景にもった学習活動の材料を示す。

児童生徒の視点に立った単元名の工夫

- ・活動内容がイメージできるような表現
- ・活動に見通しがもてるような表現
- ・興味・関心や意欲につながるような表現

5 児童生徒の実態

- ・学級全体のおおよその発達を記入
- ・**設定している単元（題材）に関わる**児童生徒の実態について記述
（授業内容に関する基礎的な既習事項（行動面や心理面を含む。）や定着状況、学習課題等）

※児童生徒の個々の課題や学級全体としての課題が出てくることから、単元（題材・教材）設定の理由に結びつけていく。

※児童生徒の実態を個別に表記することもある。＜参照＞

＜参照＞

児童生徒名	実態
A	・単元（題材）に関する実態を記述 ・指導上、特に留意しておくべき障害の程度や状態像の記述 ・何がどこまでできるか、どのような方法や支援があればできるか等を記述
B	

※ 資料 発達の目安について

A	おおよそ1歳半又はそれ以前の発達の段階	表情や身ぶりで意思疎通する発達の段階
B1	おおよそ1歳半以降の発達の段階	話しことばを習得する発達の段階
B2	おおよそ3歳又はそれ以上の発達の段階	話しことばを豊かにする発達の段階
C	おおよそ5、6歳又はそれ以上の発達の段階	書きことばを習得する発達の段階
D	おおよそ9歳又はそれ以上の発達の段階	書きことばによって思考できる発達の段階

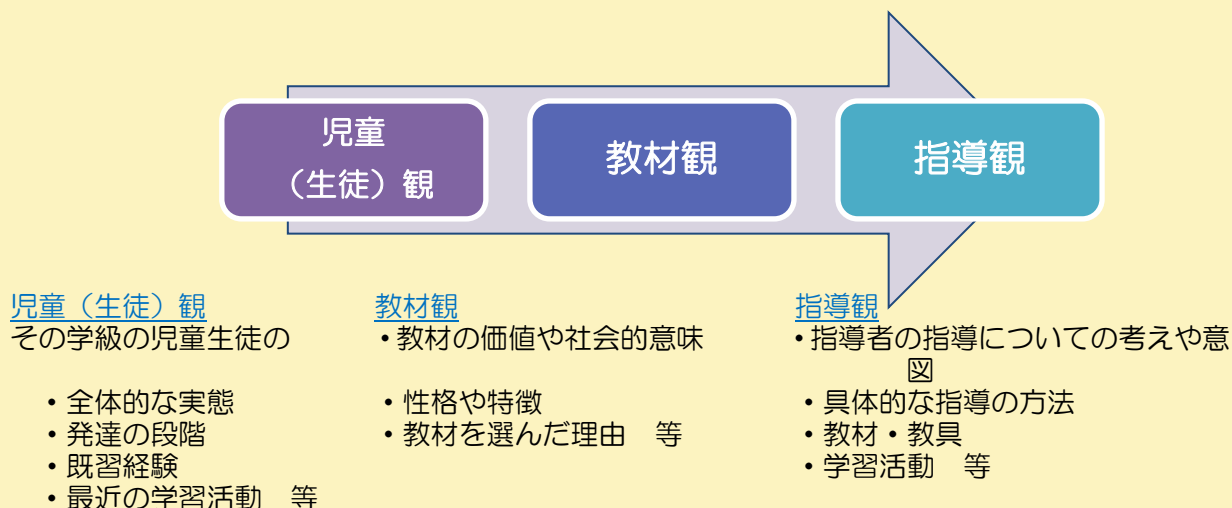
生活年齢を加味した上で、単元（題材・教材）設定します。（京都府特別支援学級調査資料より）

6 単元（題材・教材）設定の理由

＜記入のポイント＞

- ・児童生徒のこれまでの学習（年間指導計画の系統性）
- ・本単元で付けたい力
- ・本単元で付けたい力にせまるための学習活動と流れ
- ・学習内容や教材の特性に関わって特に留意すべきこと
- ・次への発展（指導の見直し）

「5 児童生徒の実態」「6 単元（題材・教材）設定の理由」を通して、「児童（生徒）観」「教材観」「指導観」について記述することで、授業者の単元設定の意図が分かりやすくなります。



※ 文章の組立て

（例）「児童生徒の様子によって何を指導するのかを考え、教材を選択するためにはこのように児童生徒を観ているから、この教材を準備して、このように指導したい。」
（児童（生徒）観—教材観—指導観のつながりをもって示す。）

※ 障害による学習上又は生活上の困難を的確にとらえ、環境を整えたり適切な指導を行ったりすることで、児童生徒が主体的に活動に参加できる可能性があるというＩＣＦの考え方を踏まえることが大切である。

7 単元（題材・教材）の目標

- ・児童生徒の実態に照らし合わせた学級全体の学習目標について記入
 - ・児童生徒の立場で、評価可能な目標を設定
- 例）「～できる。」「～身に付けることができる。」等

8 指導計画（○/○時間）

	指導計画	時間	指導内容（学習活動）
第1次			
第2次			
第3次			

- ・目標達成に向けて単元（題材・教材）で指導する内容と時間数を示す。
- ・まとめごとに「次」でくくって時間配分をする。（本時も明示）
- ・指導計画全体を見渡して、それぞれの時間のねらいを絞り込む。
- ・指導の過程や指導する内容が明確になるように記述する。

9 本時の目標

- 学級としての本時の目標を記入
- この時間でどのような力をどのような学習活動を通して身に付けさせるのかを簡潔に記述（単元目標との関連を明確にする。）

児童生徒	目 標
A	• 単元の目標と個々の児童生徒のねらいの関連と到達点を明らかにする。（児童生徒ごとに設定した目標を記入。2～3 項目までが望ましい。） • 学校目標や学級目標等を示す「はぐくみたい力」との関連を意識するとともに、個々の児童生徒に適した具体的で個別的な記入を心がける。 ※子どもの気付きや内面の育ち等の変化も意識するとともに、子ども自身が「できた」「分かった」と実感できる目標とする。
B	
C	

10 展開

時間	学習内容・活動	指導上の留意点		準備物 評価等
		学級全体	個に応じた支援	
導入 ○分	児童生徒の学習内容と指導者の留意点の双方がイメージできるように記入す			
展開 ○分	・活動を細分化して、時系列に沿って記入する。 ・本時の目標を達成するための学習課題を児童生徒向けの言葉で示す。 ・発問等は分かりやすく示す。	・教師がどのようなねらいで、どのような指導を行うのか指導のポイントを記入する。 ・個に応じた手立てや指導形態の工夫等の留意点を記入する。 ・保健衛生、事故防止、安全管理等も記入する。		
	本時の目標 ○○○○・・・・ 発問 ○○○○・・・・			
まとめ ○分	【導入】学習に対する興味・関心を引きつけ、動機付けが十分になされる内容等 【展開】関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解が身に付く内容等 【まとめ】本時の活動のまとめや良かった点等を振り返り、評価ができる内容等 ※児童生徒が主体的に学習活動に向かうためには、教師の説明を一方的に聞くだけでなく、多様な指導形態を取り入れることが必要です。			学習活動に対する評価を記入する場合もある。

11 評価

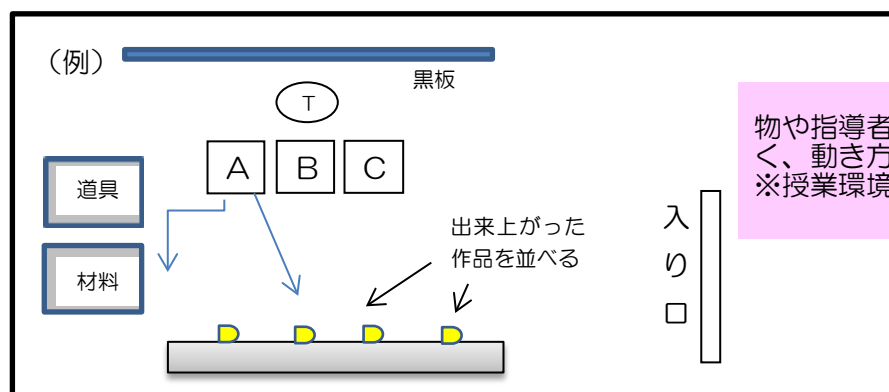
児童生徒	評価項目
A	目標に対して評価規準（何を評価するか）、評価基準（どれだけ達成したか）を踏まえて、評価する。
B	
C	

個々の子どもたちの評価は、指導者としての取組が評価につながることに留意する。（**指導の評価**につながる。）

形式的な評価に終わらず、次の授業につながる新たな発想や視点をもつ。

※授業評価として観点を定めて評価する場合がある。

12 配置図（教室内の教材、指導者、児童生徒の活動位置）



物や指導者、児童生徒の位置だけでなく、動き方（動線）も図示する。
※授業環境の写真でも可

13 板書計画

(例)

つくろう！くみのいえ ～ちからをあわせて こぶたをまもろう！～

こぶたのために じょうぶな いえをつくろう

- ・うえまで つむ
- ・つめて つむ

どんなに綿密に計画しても、当日急に子どもがお休みすることもあるね。



そうだね～
そんなこともあるよね。
やっぱり“計画は緻密に
実践はおおらかに”だね。



(資料2) アンケート調査まとめ

特別支援学級における教育課程の編成について実態を把握するため、平成 26 年度、特別支援学級担任へのアンケート調査を実施しました。その結果を踏まえ、「特別支援学級担任のための教育課程ハンドブック」を作成するなど情報を発信し、特別支援学級の担任の教育課程に対する意識化と基本的な考え方を広めてきました。

継続したアンケート調査をすることで、更に、特別支援学級の現状から課題を明確化し、特別支援学級の教育課程編成の在り方や授業づくりにつなげたいと考え、平成 27 年度も調査を実施しました。ここに平成 27 年度アンケート調査の結果をまとめます。

1 アンケート調査の実施について

(1) アンケート調査の目的

府内（京都市を除く。）の小・中学校特別支援学級担任に、教育課程の編成や各教科等を合わせた指導についてアンケート調査を行い、その実態や担任が感じている課題について把握し、今後の研究につなげる。

(2) アンケート調査の対象及び方法

ア 調査対象者・数

府内（京都市を除く。）小・中学校特別支援学級担任 529 名

イ 調査方法

- ・質問紙法によるアンケート調査（A3表裏記入）
- ・各小・中学校特別支援学級設置校長に、文書にてアンケート調査の趣旨説明を行い、特別支援学級担任に回答を依頼
- ・回収は各校から各市町（組合）教育委員会へ、各市町（組合）教育委員会から各教育局を通じ、京都府総合教育センターへ提出

ウ 回収率

98%（521 名/529 名中）

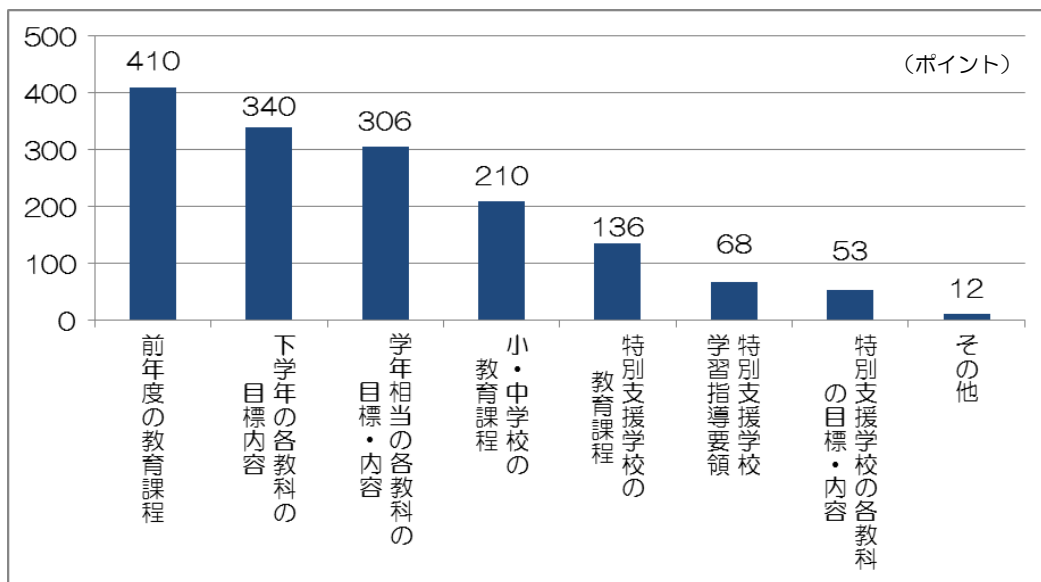
(3) アンケートの内容

内容	詳細
学級担任や学級に関わる基礎データ	・担任する特別支援学級について ・担任の教職経験年数等について
学習指導案の作成及び教育課程の編成について	・学習指導案の作成について ・学級の教育課程編成において参考としているもの ・教育課程編成に当たっての課題
教育課程や各教科等を合わせた指導について	・各教科等を合わせた指導の実施の有無とその形態及び理由 ・各教科等を合わせた指導において大切にしていること ・各教科等を合わせた指導の実施においての課題 ・困った時の対応について

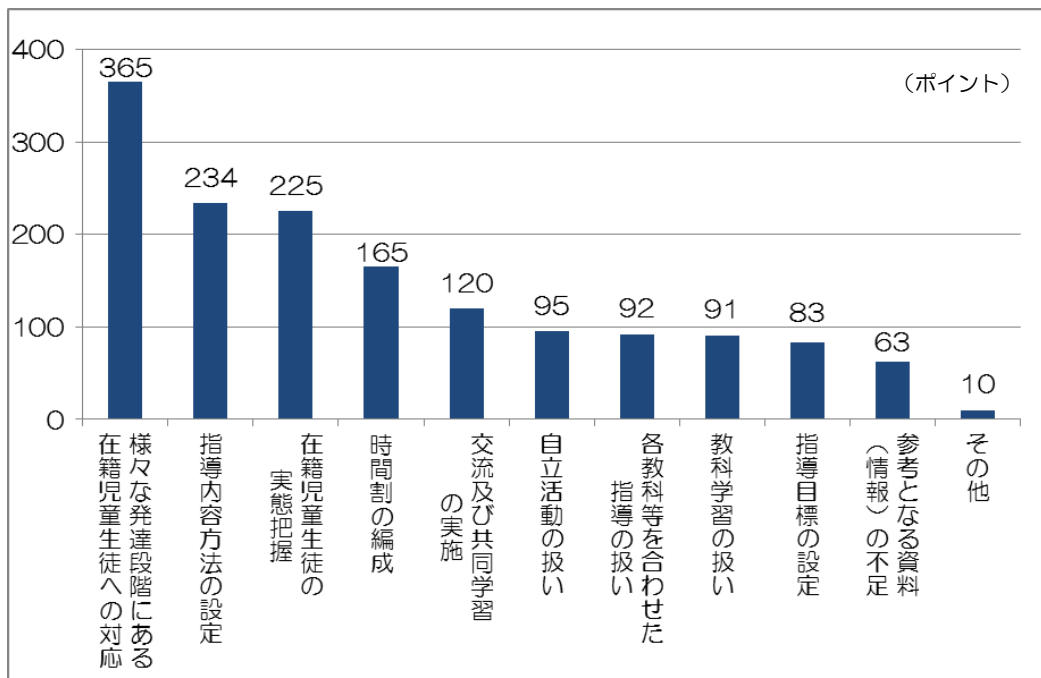
2 アンケート調査の結果

(1) 教育課程の編成について

ア 参考としているもの（複数回答）



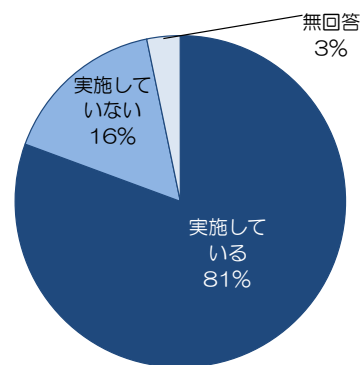
イ 課題と考えること（複数回答）



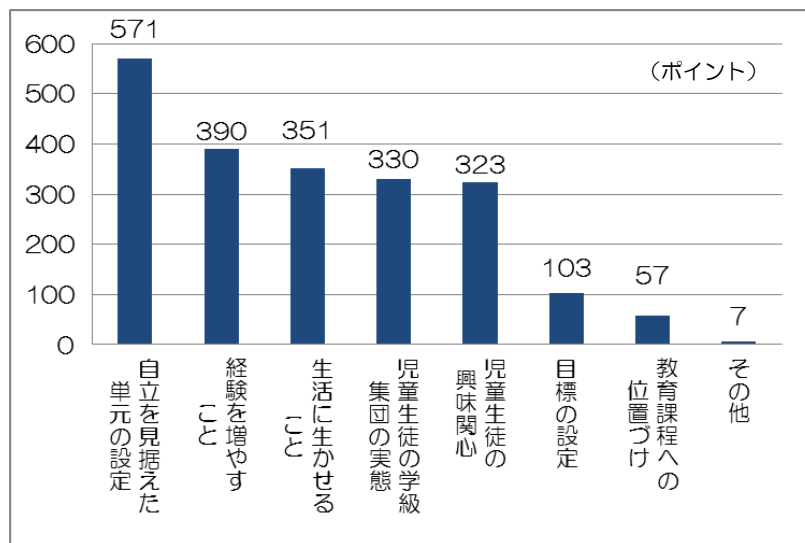
前年度の教育課程を基本にしながら、在籍の子どもの実態に合わせて教科指導の目標や内容を「学年・下学年」を参考に編成することが多い。しかし、学級の編成上、子どもの発達の段階や学年等の実態が様々であり、その対応や指導内容が「個に応じた、又は実態に応じた教育課程」になっているかどうか課題に感じている担任が多い。

(2) 「各教科等を合わせた指導」について

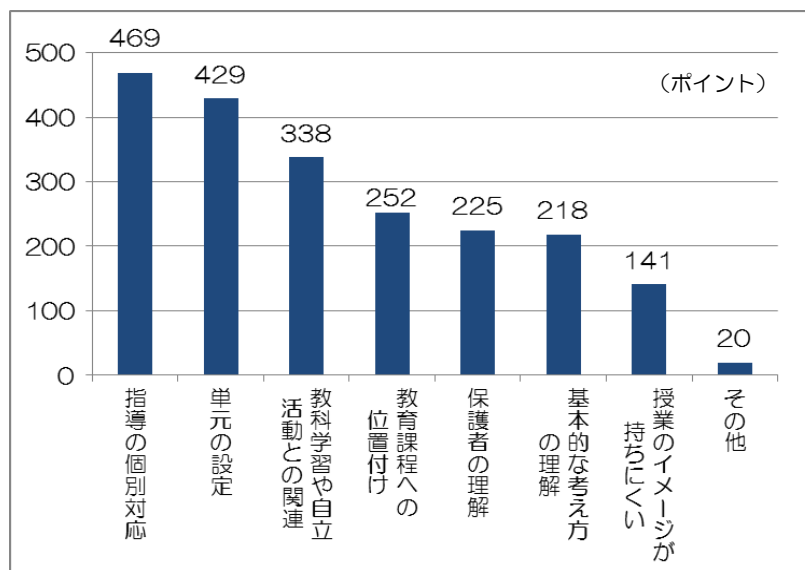
ア 実施について



イ 大切にしていること（複数回答）



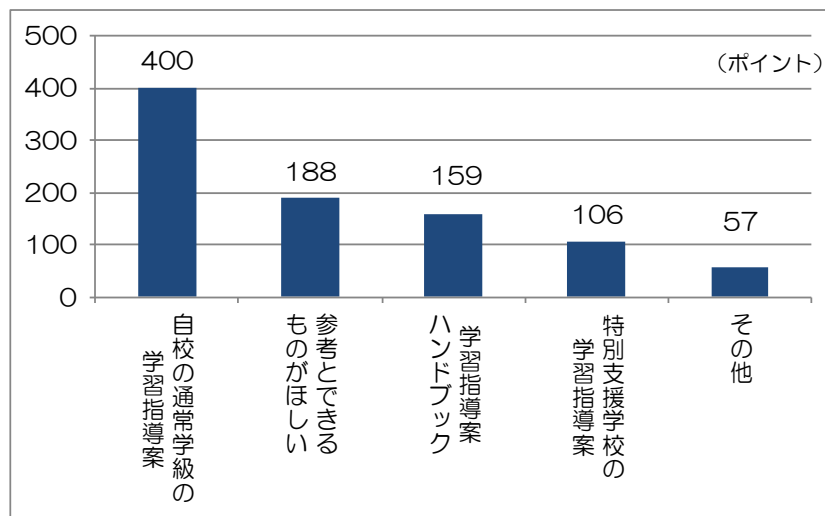
ウ 課題と考えること（複数回答）



児童生徒の実態から、实际的・具体的な内容の指導の有効性と、自立を見据えた単元設定の必要性があるとして、81%の学級で実施されている。しかし、ウの各項目に高い割合が見られるように、実際の指導では、単元の設定や教科・領域との関連、指導の個別化や保護者への対応などに課題があるとしている。

(3) その他

学習指導案の様式について参考としているもの（複数回答）



「本校の通常学級の学習指導案」をまずは参考としていることが読み取れる。一方、子どもに合わせた学習指導案を作成するために、センター作成の学習指導案ハンドブックや特別支援学校の学習指導案を参考にしている担任もいる。さらに、特別支援学級として参考にできるものがほしいという回答も多かった。

3 まとめとして

今回のアンケート調査により、特別支援学級での教育課程編成に関わる特別支援学級担任の現状と課題に関して、以下のような把握ができました。

特別支援学級の教育課程の編成に関する課題として、障害の程度や発達の段階、学年等が大きく異なる児童生徒が在籍している特別支援学級の教育課程編成の在り方と、個々の教育的ニーズに応じた単元の設定や教育課程への位置付けが挙げられました。これは前年度の調査結果と大きく変わっていません。特別支援学級の担任が感じる課題は、子どもに合わせた「教育課程」や「授業づくり」にあるということが出来ます。

小・中学校の特別支援学級における教育課程の編成に当たっては、特別支援学校の学習指導要領を参考にして「特別的教育課程」を編成することができます。これらの課題については、特別支援学校の学習指導要領を参考に教育課程を編成することで、障害種や発達の段階に応じた各教科の目標・内容、個に応じた単元設定や個別の目標を明確に立てることにつながり、実際の授業づくりにも生かすことができると考えます。

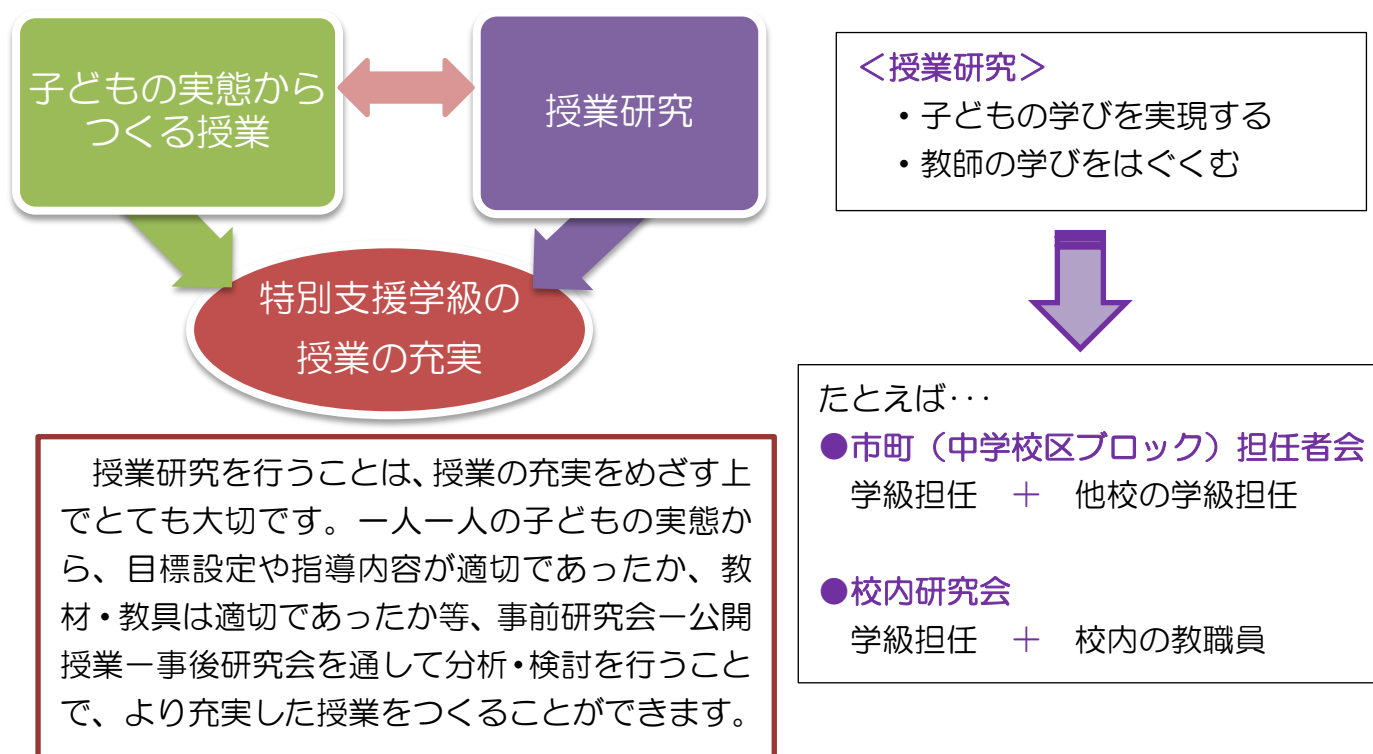
これを受けて平成27年度は、特別支援学級の学習指導案と障害種に応じた教育的対応や配慮事項などを示す本冊子「特別支援学級の授業づくりガイド」～学習指導案集（指導展開モデル）～を作成しました。

児童生徒一人一人の実態や障害の特性に応じた教育課程の編成や、日常の授業づくりにお役立てください。

5 研究のまとめ

京都府総合教育センター特別支援教育部では、平成 26 年度の研究成果として「特別支援学級担任のための教育課程ハンドブック」を作成しました。平成 27 年度は「特別支援学級における授業の充実をめざした実践研究」を実施し、その成果として本冊子を作成しました。この研究の概要を以下にまとめます。

- (1) 目的 特別支援学級の学習指導案のポイントを整理し、授業づくりの参考となる「特別支援学級の授業づくりガイド」を作成する。
- (2) 方法
ア 特別支援学級担任対象アンケートの実施（実態の把握）
イ 学習指導案の収集及び研究授業の実施（各教育局・市町教育委員会を通して）
ウ 提供された学習指導案をもとに授業展開モデルを作成
- (3) 考察 <特別支援学級の学習指導案のポイント>
ア 児童生徒の実態をもとにした授業づくり
イ 明確な目標の設定（学級・個別）
ウ 個に応じた支援の必要性（発達や特性を踏まえて）
- (4) まとめ <「特別支援学級の授業づくりガイド」の活用により期待する効果として>
ア 児童生徒の実態に応じた授業の促進
イ 特別支援学級の授業研究の充実



おわりに

特別支援学級では、特に必要がある場合、特別の教育課程を編成することができます。

子どもたちの今、そして将来を見つめたとき見えてくる姿から、どんな力を付けることが必要なのか、どうすればその力を付けることができるのかを考えて授業をつくることが大切です。子どもたちの実態に合った目標、活動内容が設定できれば、達成感のある授業、子どもたちにとっても担任にとっても「楽しい」と思える授業となります。そして、つくった授業をもとに授業研究を行うことも大切です。「この子どもたちには、こんな目標が適切なんだ」とか「この指導によって子どもの主体性がうまく引き出せている」等、担任者会や校内研究会でお互いの授業を見合う中で気付くこと、学べることがたくさん出てきます。

この冊子を、そんな授業づくりの参考にさせていただけるように願っています。

最後になりましたが、研究冊子作成に御協力いただいた方々に深く感謝いたします。

参考・引用文献

- 「特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 高等部学習指導要領」
文部科学省 平成 21 年
- 「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）」 文部科学省 平成 21 年
- 「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）」
文部科学省 平成 21 年
- 「特別支援教育における授業づくりのコツ これならみんな分かって動ける」
藤原義博(監修・著) 小林真・阿部美穂子・村中智彦(編著)
富山大学人間発達科学部附属特別支援学校(著) (学苑社) 平成 24 年
- 「教育支援資料～障害のある子供の就学手続きと早期からの一貫した支援の充実～」
文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 平成 25 年
- 「特別支援教育の学習指導案と授業研究-子どもたちが学ぶ楽しさを味わえる授業づくり-」
(ジアース教育新社) 鹿児島大学教育学部 肥後祥治他 平成 25 年
- 「特別支援学校及び特別支援学級における教育課程の編成と実施に関する研究成果報告書」
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 平成 26 年
- 「『各教科等を合わせた指導』ガイドブック」京都府総合教育センター 平成 26 年
- 「特別支援学級担任のための教育課程ハンドブック」京都府総合教育センター 平成 27 年
- 「特別支援学校（知的障害教育）学習指導案作成ポイント」京都府総合教育センター 平成 27 年

<指導助言>

京都教育大学 教授 相澤 雅文

<研究協力>

長岡京市教育委員会・宇治市教育委員会・京田辺市教育委員会・井手町教育委員会・
亀岡市教育委員会・舞鶴市教育委員会・乙訓特別支援教育研究会・丹後特別支援教育研究会・
京田辺市特別支援教育研究会担任者会・井手町支援学級担任者等会・
亀岡市特別支援教育研究会・舞鶴市特別支援教育研究会

特別支援学級の授業づくりガイド

～学習指導案集（授業展開モデル）～

平成 28 年 3 月発行

京都府総合教育センター 特別支援教育部

〒612-0064

京都府京都市伏見区桃山毛利長門西町

TEL 075-612-2953（特別支援教育部）

FAX 075-612-3267

このガイドは、京都府総合教育センターのホームページにも掲載しています。

[http:// www.kyoto-be.ne.jp/ed-center/](http://www.kyoto-be.ne.jp/ed-center/)